

茗溪



春

2023

令和5年

no.1116



目次

- グラビア …… 01 ～ 02
- 令和4年度茗溪会賞受賞者・活動内容の一覧 …… 03
- 年会費と学生支援 …… 04 ～ 05
- 第12回定時総会開催(5/18)のご案内(令和4～5年度代議員一覧) …… 06
- 地域組織の役員及び令和5年度総会・研修会予定 …… 07
- 追悼 西野虎之介氏 …… 08 ～ 09
- 追悼 第11代西野虎之介氏(江田昌佑) …… 10
- 西野虎之介氏を悼む(長瀬要石) …… 11
- Peer Garden(茗溪アルバム) …… 12 ～ 16
- 筑波大学は今 …… 17
- 知の提供・誌上講座「元素講話」 …… 18 ～ 19
- 孫文のおつかい …… 20 ～ 21
- 茗溪フェロー協力者ご芳名 …… 22
- 桐の葉のつどい …… 22
- 茗溪学園だより …… 23
- 追悼録 …… 24 ■ 著者紹介 …… 24
- 広報 …… 25 ■ 表紙のことば …… 25
- 編集後記 …… 25 ■ 予告 …… 26



春爛漫の千鳥ヶ淵(撮影:鈴木一弘)



桜美林大学

J. F. Oberlin University

リベラルアーツ学群 / 健康福祉学群
ビジネスマネジメント学群 / 芸術文化学群
グローバル・コミュニケーション学群
航空・マネジメント学群
教育探求科学群 (2023年4月開設予定)
※設置準備構想中

桜美林学園 理事長・小池 一夫
学長 畑山 浩昭
入学部相談役 川田 孝一 (昭39教大総農)

【お問合せ先】

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758
桜美林大学入学部インフォメーションセンター
Tel.042-797-1583 E-mail:info-ctr@obirin.ac.jp



地域と歩み、次代を創る。

SEKISHO

SEKISHO GROUP

当社は「財団法人関彰育英会」を通して、筑波大学大学院博士後期課程の院生に、研究支援として奨学金の支給を行っております。



関彰商事株式会社

代表取締役社長 関 正樹

つくば本社 / 茨城県つくば市二の宮 1-23-6 TEL 029-860-5151

茗溪会担当：取締役 常務執行役員 岡本 俊一
(昭和56年 第一学群 社会学類 卒業)

<https://www.sekisho.co.jp/>



力と自信がつく教育で 「考え、行動する人材」を育成します。



- 工学部
 - 機械工学科 機械工学コース
 - 機械工学科 航空宇宙学コース
 - 電気電子情報工学科
 - 応用化学科
- 創造工学部
 - 自動車システム開発工学科
 - ロボット・メカトロニクス学科
 - ホームエレクトロニクス開発学科
- 応用バイオ科学部
 - 応用バイオ科学科 応用バイオコース
 - 応用バイオ科学科 生命科学コース
- 情報学部
 - 情報工学科
 - 情報ネットワーク・コミュニケーション学科
 - 情報メディア学科
- 健康医療科学部
 - 看護学科(看護師・保健師養成課程)
 - 管理栄養学科(管理栄養士養成課程)
 - 臨床工学科(臨床工学技士養成課程)

教職センター 大畑多津雄 (S52 理) (神奈川茗溪会会 長)
I R 室 望月 正大 (S51 理) (同 副会長)
公務員対策室 林 忠 (S58第1自)



神奈川工科大学

KANAGAWA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

〒243-0292 神奈川県厚木市下荻野1030
TEL.046-291-3002 URL:<https://www.kait.jp/>



茗溪会 医薬・関連業界交流会

2023年2月11日



茗溪会 公開講座～シンポジウム

2023年2月25日



茗溪会館4階「新泉・筑波」を会場とした行事が開催された。いずれも、上のような会場配置で、前半は講演、後半は懇談会といった日程で進められた。

◇「医薬・関連業界交流会」は、昨年1月に同窓2人の懇談から始まり、第3回目を迎えて、30人に膨れ上がった。

◇「公開講座」は、「教育における茗溪の伝承と創造」というテーマの下で、江田前理事長の基調講演に続き、阿江通良副理事長の進行で、真田久・谷出正直両理事をパネラーに、会場参加者も加わったシンポジウムは予定時刻を超えて盛り上がった。その後、1都4県（東京・千葉・埼玉・茨城・神奈川）の会員が集まり、懇談が行われた。

以上、3つの会合は、今回はグラビア紹介にとどめ、次回、内容紹介をさせていただきます。

茗溪会 1都4県の会（仮称）

2023年2月25日



令和4年度 茗溪会賞(大学院修了者) 受賞者一覧

研究科・学術院	研究群	専攻・プログラム	氏名	活動の名称	
人文社会科学学術院	人文社会科学研究群	国際日本研究学位プログラム	飯田 朋子	日本語教育学分野の博士後期課程での顕著な成果	
	ビジネス科学研究群	法学学位プログラム	廣瀬 千晃	立退料の算定に関する問題の顕著な学修成果	
		経営学学位プログラム	佐々木 舞香	令和3年度データ解析コンペティションJIMS合同部会優勝	
	—	法曹専攻	木村 光利	法曹資格取得に向けた法曹専攻での顕著な学修成果	
理工情報生命科学学術院	生命地球科学研究群	山岳科学学位プログラム	神藤 友宏	国内山岳域に広く分布する外来魚ブラウントラウトの管理についての社会啓蒙活動	
		(博士前期課程) 生物資源科学学位プログラム	ARKAR MINN	農業機械分野の顕著な学修成果・日本高校及び小学校への貢献・化交換としての支援活動等)	
			人見 健矢	微生物の増殖動態に関する研究への貢献	
			川島 花雪	微生物間相互作用についての顕著な研究成果	
			橋詰 崇雅	細胞培養の培地開発における顕著な学修成果	
			大木 隼太	高等学校生の研究室訪問における研究紹介ならびに実験指導	
	(博士前期課程) 生物学学位プログラム	渡邊 瑛	発生生物学・内分泌学分野の顕著な学修成果		
	システム情報工学研究群	サービス工学学位プログラム	川辺 怜	高大連携活動など地方活性化への貢献	
		社会学学位プログラム	大平 航己	地域の伝統神事を残し、活用していくための社会貢献活動	
			板橋 昂汰	交通ネットワーク理論分野の顕著な学修成果	
		リスク・レジリエンス工学学位プログラム	中川 権人	東京オリパラ2020輸送チーム物語「オリンピックを運べ」構築への貢献	
		構造エネルギー工学学位プログラム	才田 大聖	機械学習によるインフラ建造物の保有性能評価に関する研究	
			情報理工学位プログラム	雨坂 宇宙	学術会議WISS2022が行った公開配信での研究発表、及びその研究成果のメディア掲載
	数理物質科学研究群	知能機能システム学位プログラム	吉川 優依	小学生および高校生に対する教育支援活動	
			幡野 陸	図書紹介ロボットを使用した教育現場における顕著な社会貢献活動	
		数学学位プログラム	譚 熙川	Tsukuba Workshop for Young Mathematicians 2023	
		応用理工学学位プログラム 物性・分子工学サブプログラム	市川 真衣	理科教育活動への貢献	
	人間総合科学学術院	人間総合科学研究群	応用理工学学位プログラム 物性・分子工学サブプログラム	服部 亮佑	高校生及び留学生への教育的支援活動並びに学外研究施設利用による研究活動
			応用理工学学位プログラム 物性・分子工学サブプログラム	米原 卓哉	小中高校生への理科教育実験活動
			化学学位プログラム	萩谷 健太	修士論文における分析化学分野の顕著な学修成果
教育学学位プログラム 国際教育サブプログラム			五十嵐 真結	外国にルーツをもつ生徒への日本語学習支援活動	
教育学学位プログラム 次世代学校教育創成サブプログラム			安部 拓輝	高校フィールド探究部における地域探究プログラムへの貢献	
体育科学学位プログラム			桑水 隆多	体育・スポーツ科学分野の顕著な研究成果	
(博士前期課程) 情報学学位プログラム			稲田 和巳	社会活動も含め、作品制作などの優れた成果	
カウンセリング学位プログラム			宮原 契子	プロボノとしてのこどもホスピスの設立や社会への周知への貢献	
カウンセリング科学学位プログラム	平野 智子	訪問看護・在宅医療に関する研究の遂行と成果の社会的還元			
看護科学学位プログラム	宮崎 星	コロナ禍での保健所保健師業務の逼迫状況の解明と防疫システム体制整備への提言に関する研究活動			
世界遺産学学位プログラム	金田 郁也	石見銀山地域の小学校、高校における世界遺産学習の実施			
人文社会科学研究科	—	一貫性博士課程歴史・人類学専攻	荒井 啓汰	ポストプロセス考古学的視点にもとづく古墳時代研究分野への顕著な貢献	
人間総合科学研究科	—	障害科学専攻	井口 亜希子	聴覚障害者のための合理的配慮(手話通訳その他)に関する活動	
	—	ヒューマン・ケア科学専攻	鈴木 貴明	アジア後発開発途上国ラオスにおいて交通事故から住民の命を守る救命救急活動支援	
グローバル教育院(一貫制博士課程)エンパワーメント情報学プログラム			Lucas Rebelo Dal'Bello	人間情報学分野への貢献	

令和4年度 茗溪会賞(芸術部門) 受賞者一覧

所属	領域	氏名	作品名・論文名
芸術専門学群	建築デザイン	長井 春雅くらら	生命の種
芸術専門学群	日本画	山形 彩月	生彩
芸術学学位プログラム	ビジュアルデザイン	夏 陸嘉	日曜日食日

年会費と 学生支援



2020年、箱根駅伝応援用スティックバルーンは学生に好評で、体育会から「他の競技の応援にも宣揚歌入りのスティックバルーンを使用させてほしい」との要請があった。どの競技にも使用できる汎用デザインに変更し、1,000本を贈呈した。

●会費収入の減少

会費収入が激減しています。三年に亘るコロナ禍により、各地域の会合は軒並み開催中止に追い込まれました。それにより、会合に例年参加していた会員が会費納入の機会を失ったことや、あるいは、会合を機に新たに茗溪会員の手続きをとるという光景も見られなくなったのが実情です。

●独立した二つの会計

茗溪会は、「独立した二つの会計」から成り立っています。

収入源

- ・年会費
- ・フェロ-寄付等



使いみち

- ・会員の共益事業
- ・学生活動の支援事業
- ・大学との連携事業等

収入源

- ・地代
- ・建物賃貸等



使いみち

- ・茗溪会館管理維持費
- ・本部事務の経費
- ・租税公課等

一つは茗溪会館の維持管理や本部事務の経費を賄う「事業会計」で、その収入は、地代や建物賃貸料で賄っており、安定収支となっています。

もう一つは、学生支援や会員の共益事業の活動を賄う「会費会計」で、収入は会員の年会費から成り立っています。

●会費会計の内訳

茗溪会の活動は3つの委員会からなり、会費会計で運営されています。

- ① 大学・つくば地域支援委員会
学生の課外活動の支援や大学・地域との連携を活動内容としています。
- ② 組織委員会
会員の共益、地域組織との連携や支援等を活動内容としています。
- ③ 広報委員会
季刊誌発行やホームページの管理運営を活動内容としています。

会費会計の内訳は、下図の通りですが、コロナ禍により予算費消に至らなかった活動も多々あります。

会費収入の減少が活動停止による予算費消と重なったことで、会費会計の収支の崩れが表面化してこなかったというのが実情です。

例えば、コロナ禍以前は、大学・つくば地域支援委員会は、学生活動支援や大学連携事業に600万円程の予算を計上していました。卒業式後の懇親会補助や学生活動支援・顕彰事業が主な内容です。

ところが、卒業懇親会は卒業式そのものの中止で開催されませんでしたし、学生活動も大学構内の閉鎖や部活動等の停止によって、支援の対象となる活動がないという状態が続きました。唯一実施された事業は、学生の学修や地域貢献活動に対する顕彰のみで、これがコロナ禍における実情でした。

●コロナ禍以後

会費収入の現況からみて、コロナ禍以後の活動はこれまで通りとはいかず、その削減を検討せざるをえなくなりました。いずれにしろ、両面の対策が必要です。

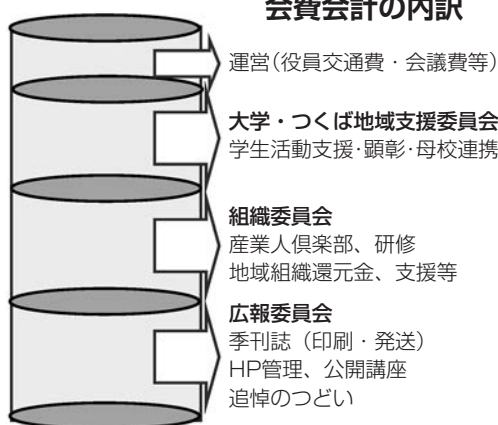
一つは、活動縮小による経費削減
一つは、会費収入の増収

ところで、季刊誌は年4回の発行ですが、一回に付き220万円を要し、会費会計の中で大きな割合を占めています。内訳は印刷費と発送費です。

発送は正会員一万二千人超を対象としています。その7割が会費を完納された方々で、今後増加傾向にあります。

会費完納者以外の正会員とは直近の3年間で会費を一度でもお支払いいただいた方々をいいます。

会費会計の内訳



●筑波大学生の課外活動

筑波大学生の課外活動は、三系からなります。文科系サークル連合、芸術系サークル連合、そして体育会です。

筑波大学設立以来、三系の登録団体は25に及びます。芸術系サークル連合会36、文化系サークル連合会146、体育会は69の団体を登録してきました。体育会の中には、蹴球部(明治29創部)や軟式庭球部(明治21創部)のように、高師以来、連綿と続いてきた部もあります。

●茗溪会による課外活動支援事業

茗溪会による課外活動支援事業の対象は、「スポーツ、芸術、文化活動、ボランティア、課外で取り組む研究、地域貢献、ベンチャービジネス等の学内におけるサークル活動やNPOを含む学外での活動を行う団体または個人」と多方面に及び、活動や取組みの計画段階で審査し助成金を支給してきました。

コロナ以前、4年間の採択活動を紹介しますと、下表のように、その年限りの採択や毎年採択される活動もあります。

「学び場さくら塾」は、「地域の子どもたちへの学習補助を通じて、筑波大学と地域の人々を結び役割を果たす」目的で、自由度の高い学習の場と子供たちの居場所の提供を図る活動です。ボランティア保険の加入やドメイン更新料、教材印刷代、文房具購入費など、学生側の費用負担の軽減が応募の理由でした。

NO	学生活動支援採択団体・個人	H28	H29	H30	R1
1	筑波大学 宇宙技術プロジェクト		○		
2	筑波大学 応援部WINS	○	○	○	○
3	筑波大学 学園祭実行委員会	○	○		○
4	筑波大学 管弦楽団	○	○	○	○
5	筑波大学 斬桐舞		○	○	
6	筑波大学 将棋部				○
7	筑波大学 吹奏楽団	○			
8	筑波大学 スポーツ・デー学生委員会OBOG会	○			
9	筑波大学 体育会オリエンテーリング部	○	○	○	○
10	筑波大学 体育会弓道部		○		
11	筑波大学 体育会硬式庭球部				○
12	筑波大学 体育会女子ソフトボール部				○
13	筑波大学 体育会漕艇部				○
14	筑波大学 体育会バドミントン部			○	○
15	筑波大学 体操部				○
16	筑波大学 天文研究会投影機製作班	○	○	○	
17	筑波大学 ライフセービング部	○			
18	筑波大学 陸上競技部長距離ブロック駅伝チーム	○	○	○	○
19	筑波大学生文芸賞運営委員会	○	○	○	○
20	つくば 院生ネットワーク (TGN)	○	○	○	○
21	つくば ミュージックプロジェクト	○	○	○	○
22	つくば リサیتالシリーズ実行委員会	○	○	○	○
23	つくばろぼっとサークル	○	○	○	○
24	ふるさとつくばゆいまつり実行委員会	○	○	○	○
25	盆踊りプロジェクトー盆LIVEー	○			
26	盆LIVE2017		○		
27	食と酒 東北祭り実行委員会	○	○	○	○
28	学び場さくら塾	○	○	○	○
29	香風寮学習ボランティア				
30	ジャズ楽団	○			
31	日本マラウイ学生団体		○		
32	CLOVER～難民と共に歩むユース団体		○		
33	HSCaT	○	○	○	○
34	Realjam	○			

「食と酒 東北祭り実行委員会」は、東日本大震災の年に筑大生有志が集い、結成されました。被災した東北を少しでも応援できる何かを作りたいという思いからの行動です。以来、毎年十月につくば駅前でお祭りを開催し続けてきましたが、コロナ禍の中で資金調達があまくいかず苦戦の様子が伺えます。

選考対象は、「原則として大学、その他から支援を受けていない団体を優先する」とありますが、支援を求めている公認団体も多々あります。

「体育会女子ソフトボール部」は「指

導者のいないチーム」で、他大学と合同で指導者を招き、技術や練習メニューを学び、チームづくりに活かしています。移動やグラウンド使用料、外部コーチ指導料などの補助の申し出です。

「筑波大学体操部」はオーストリアで開催される世界体操祭に日本体操協会から推薦を受けて遠征することになりましたが、協会からの遠征費援助はなく、全員自己負担での参加となるということ、負担軽減を願って出してきました。

このように、様々な事情と背景をも

つ団体が、大学構内やつくば地域で活動を展開しています。表に掲載しませんでした。研究や企画で採択された個人の活動も、もちろんあります。

会費納入者を増やしませんか

個人や団体の学生活動は、コロナ禍の中で中断や後退、あるいは消滅したものもあるかと思いますが、活動再開や継続のためには、これまで以上の支援を必要としているはず。茗溪会は、今こそ、学生を応援すべきなのですが、コロナ禍に始まる会費納入者の激減で、思うに任せない状態です。

これまで、茗溪会は年会費収入の内、凡そ20%程を学生支援に充ててきました。年会費3500円の内700円を充ててきた計算ですが、その算段も、会費収入減により、先行きが怪しくなっています。

この点をご理解の上、地域組織におかれましては、総会など機会あるごとに、議題の一項目として、会費の意味をご説明いただき、年会費を納入いただくよう、一言添えて頂ければ幸いです。

●「茗溪フェロー」寄附のお願い

また、会費を完納された会員の方々におかれましては、「茗溪フェロー」として、ご寄附(一口二〇〇〇円)を頂戴できれば助かります。

以上、お願いとさせていただきます。

一般社団法人 茗溪会(第12回)

2023年度 定時総会開催のご案内

※日 時：2023年5月18日(木) 午後1時15分から

※場 所：茗溪会館2階「茗溪」の間

※議 題：2022年度事業報告、決算報告、2023年度事業計画(案)、予算(案)等

2022・2023年度 一般社団法人茗溪会 代 議 員 一 覧

地域組織	姓 名	卒年卒科・群	地域組織	姓 名	卒年卒科・群	地域組織	姓 名	卒年卒科・群
筑波大	伊藤 純郎	昭56筑一人文	東 京	渡邊 悟	昭62筑博農	愛 知	柴田 悦己	昭61筑二比文
名誉教授の会	大嶋 建一	昭46東北大理	東 京	三橋 浩志	昭63筑一自然	愛 知	竹下 裕隆	昭56筑一社会
北海道	川口 淳	昭58筑修教	東 京	高橋 誠	昭42教大心理	愛 知	蟹江 吉弘	昭61筑一人文
北海道	宮下 聡	昭57筑体	東 京	渡部 史人	昭53筑一自然	愛 知	馬場 茂	昭61筑体
青 森	前田 濟	昭59筑一自然	東 京	柳 久美子	昭50教大体	岐 阜	鈴木 健	昭59筑二生
岩 手	高橋 縁	昭60筑二人間	東 京	飯島 睦子	昭54筑二人間	三 重	岡村 芳成	昭62筑一自然
宮 城	土生 善弘	昭62筑体	東 京	浅井 一郎	昭55筑一人文	滋 賀	樋口 康之	昭61筑体
秋 田	永井 元	昭60筑二農	東 京	海老沢敬子	昭62筑二農	京 都	三橋 利彦	昭58筑体
山 形	津田 浩	昭58筑一自然	東 京	徳田 安伸	昭55筑二農	大 阪	松本 秀範	昭53院修林
福 島	大沼 博文	昭56筑二人間	東 京	金田 喜明	昭56筑一人文	大 阪	岡村多加志	昭55筑一自然
茨 城	秋本 光徳	昭61筑一人文	東 京	竹村 恭一	昭56筑一自然	兵 庫	升川 清則	昭59筑体
茨 城	高瀬 宏樹	昭55筑一自然	東 京	笹 のぶえ	昭56筑二比文	奈 良	谷垣 康	昭53筑一人文
茨 城	中澤 斉	昭60筑一自然	東 京	久保 淳	昭56筑体	和 歌 山	川久保尚志	昭62筑二生
茨 城	中島 博司	昭57筑一人文	東 京	塩津 真	昭62筑修経	鳥 取	小倉 健一	昭53筑体
茨 城	高村 祐一	昭61筑一人文	東 京	松村 直樹	昭61筑修環	鳥 根	西村 覚	昭61筑体
茨 城	中根 一明	昭56筑三社工	東 京	真当 哲博	昭57筑二人間	岡 山	長尾 隆史	昭55筑体
茨 城	海老原 健	平3筑三社工	神 奈 川	山崎 紀彦	昭51教大農経	広 島	大辻 明	昭47教大体
栃 木	石川 明範	昭60筑一人文	神 奈 川	中道 徹	昭58筑二生	山 口	吉本 晃	昭54筑二人間
栃 木	前橋 均	昭62筑二比文	神 奈 川	大石 進	昭56筑体	徳 島	阿部 隆	昭60筑二農
群 馬	丸橋 覚	平2筑修教	神 奈 川	佐々木悦子	昭46教大体	香 川	槌谷 昌晃	昭61筑一自然
群 馬	高田 博基	昭60筑体	神 奈 川	塚本 格	平8筑三社工	愛 媛	山下 尚生	昭60筑芸
埼 玉	矢嶋 章司	昭35教大体	神 奈 川	大畑多津雄	昭52教大数	高 知	田頭 克文	昭57筑体
埼 玉	平野 正美	昭54筑二比文	山 梨	小俣 宏記	昭59筑体	福 岡	稲富 勉	昭61筑体
埼 玉	細田 幸一	昭50教大独	長 野	志津 享	昭61筑一自然	佐 賀	松雪 誉	昭61筑体
埼 玉	奥谷 多作	昭34教大工芸	長 野	宮坂 博昭	昭61筑二比文	長 崎	山口 千樹	昭60筑二生
千 葉	山崎 成夫	昭56筑体	新 潟	中島 郁雄	昭53筑体	熊 本	大嶋 康裕	昭61筑体
千 葉	猿渡 末治	昭55筑一自然	富 山	福島 英晴	昭57筑三情	大 分	野尻 明敬	昭59筑二人間
千 葉	小宮山伴与志	平1筑博体	石 川	田井 友章	昭59筑体	宮 崎	児玉 洋一	平2筑三社工
東 京	堀川 勝史	昭61筑体	福 井	金崎 肇	昭59筑一自然	鹿 児 島	黒木 哲二	昭62筑二比文
東 京	井上 芳明	平1筑体	静 岡	岡端 隆	昭61筑体	沖 縄	前門 晃	昭58筑博理
東 京	栗原 茂夫	昭55筑二比文	静 岡	望月 保宏	昭61筑一人文			
東 京	田中 修	昭54筑二農	静 岡	柴 雅房	昭61筑一人文			

令和5年度 地域組織の役員及び総会等の予定

*2023/3/31現在

No.	名称	支部長・会長	連絡窓口	メールアドレス	開催予定日時	開催予定場所	備考
1	筑波大茗溪会	伊藤 純郎	瀧下 芳彦	tsu3jimu@meikei.or.jp	R5.7月中旬、R6.2月下旬	未定	
2	名誉教授の会	大嶋 建一	新井 達郎	emeritus@meikei.or.jp	R5.10月中旬	筑波大学学生会館	
3	北海道茗溪会	川口 淳	尾形 友秀	hokkaido@meikei.or.jp	未定	未定	
4	青森支部	前田 清	工藤 誠司	aomori@meikei.or.jp	未定	未定	
5	岩手支部	高橋 緑	清水 茂幸	iwate@meikei.or.jp	未定	未定	
6	宮城支部	土生 善弘	山崎 健二	miyagi@meikei.or.jp	R5.11月下旬の予定	ホテル白萩	
7	あきた茗溪会	永井 元	戸嶋 幸子	akita@meikei.or.jp	未定	未定	
8	山形県支部	津田 浩	鳥羽 聡	yamagata@meikei.or.jp	R5.11月下旬の予定	ホテルキャッスル	
9	福島県茗溪会	伊豆 幸男	渡邊 優輔	fukushima@meikei.or.jp	R5.7.2(日)	コラッセふくしま	
10	茨城茗溪会	高村 祐一	太田 泰助	ibaraki@meikei.or.jp	未定	未定	
11	栃木県茗溪会	前橋 均	今井 和彦	tochigi@meikei.or.jp	未定	未定	
12	群馬支部	小林 智宏	飯塚 勇一	gunma@meikei.or.jp	R5.8.19(土) 14:00~	メトロポリタン高崎	
13	埼玉支部	春山 賢男	青木 勇藤	saitama@meikei.or.jp	未定	未定	
14	千葉支部	百瀬 明宏	大久保利宏	chiba@meikei.or.jp	未定	未定	
15	東京茗溪会	高橋 基之	大根田 裕	tokyo@meikei.or.jp	未定	未定	
16	神奈川茗溪会	加藤 充洋	大石 進	kanagawa@meikei.or.jp	R5.7.22(土) 11:00~	未定	
17	山梨支部	小林 智	佐藤 朗	yamanashi@meikei.or.jp	未定	未定	
18	長野県支部	志津 享	郷原 玲	nagano@meikei.or.jp	R5.6.18	ホテルモンターニュ	6月より支部長：石川裕之
19	新潟茗溪会	中島 郁雄	山下 幸治	niigata@meikei.or.jp	R5.6.24	ホテルサンルート新潟	
20	富山支部	中村 謙作	寺崎 啓子	toyama@meikei.or.jp	未定	未定	
21	石川支部	田井 友章	神田 康	ishikawa@meikei.or.jp	未定	未定	
22	福井県支部	牧野 保彦	田崎 忍	fukui@meikei.or.jp	R6.2.3(土)	嶺南地区	
23	静岡県支部	望月 保宏	渡辺 洋介	shizuoka@meikei.or.jp	未定	未定	
24	愛知支部	竹下 裕隆	蟹江 吉弘	aichi@meikei.or.jp	R5.7.9(日) 16:00	ルブラ王山	支部講演会16:00 総会17:30
25	岐阜茗溪会	鈴木 健	蒲 尚胤	gifu@meikei.or.jp	R6.2月頃	グランヴェール岐山	
26	三重茗溪会	岡村 芳成	若宮 一哉	mie@meikei.or.jp	R5.7月上旬	未定	
27	SMK (関西ブロック)	松本 秀範	戸井田 克己	ohsaka@meikei.or.jp	R5.11月某日	道頓堀ホテル	
28	滋賀支部	脇坂 高峰	藤江 隆史	shiga@meikei.or.jp	未定	未定	
29	京都茗溪会	三橋 利彦	遠山 秀史	kyoto@meikei.or.jp	第1候補 R5.11.18(土)	ホテルグランヴィア京都	第2候補 R5.11.11(日)
30	大阪茗溪会	松本 秀範	戸井田 克己	ohsaka@meikei.or.jp	R5.6.10 16:30~	道頓堀ホテル	
31	兵庫支部	若浦 直樹	山田 真利	hyogo@meikei.or.jp	未定	未定	
32	奈良茗溪会	谷垣 康	井上 徳之	nara@meikei.or.jp	未定	未定	
33	和歌山茗溪会	川久保尚志	川口 勝也	wakayama@meikei.or.jp	R5.7月中旬	和歌山市内のホテル	
34	鳥取県茗溪会	小倉 健一	出雲 大輔	tottori@meikei.or.jp	R5.7月予定	鳥取市	
35	島根県支部会	境 英俊	西村 覚	shimane@meikei.or.jp	未定	未定	
36	岡山支部	長尾 隆史	長尾 隆史	okayama@meikei.or.jp	未定	未定	
37	広島支部	大辻 明	若井 研治	hiroshima@meikei.or.jp	未定	未定	
38	山口支部会	吉本 晃	藤本 秀夫	yamaguchi@meikei.or.jp	未定	未定	
39	徳島茗溪会	阿部 隆	池淵 茂	tokushima@meikei.or.jp	R5.7月上旬	ホテルグランドパレス徳島	
40	香川茗溪会	土居 真也	飯尾 美保	kagawa@meikei.or.jp	R5.11月を予定	未定	日時と場所は 8月上旬に決める
41	愛媛茗溪会	川野 光正	辻岡 英幸	ehime@meikei.or.jp	R5.8.6(日) 12:00~	にぎたつ会館	3月の異動で 変更可能性あり
42	高知茗溪会	田頭 克文	手林 慎一	kouchi@meikei.or.jp	未定	未定	
43	福岡茗溪会	稲富 勉	片山 英和	fukuoka@meikei.or.jp	R5.7.1(土) 18:00~	八仙閣本店	
44	佐賀県茗溪会	松雪 誉	山田 和人	saga@meikei.or.jp	R5.6.3(土)	グランデはがくれ	
45	長崎茗溪会	岩橋 英夫	井出 英介	nagasaki@meikei.or.jp	R5.6.24(土) 12:00~	セントヒル長崎	
46	熊本支部	大嶋 康裕	橋本 徹也	kumamoto@meikei.or.jp	R5.6月中旬	未定	
47	大分県茗溪会	野尻 明敬	押田 武	oita@meikei.or.jp	R6.2月	大分市内	
48	宮崎県支部	川井田和人	児玉 洋一	miyazaki@meikei.or.jp	未定	未定	
49	鹿児島茗溪会	黒木 哲二	前 和樹	kagoshima@meikei.or.jp	未定	未定	
50	沖縄茗溪会	前門 晃	三輪 一義	okinawa@meikei.or.jp	未定	未定	

追悼

西野虎之介氏



1953年3月 東京教育大学農学部卒業
1953年4月 常陽銀行入行
1993年6月 常陽銀行取締役頭取
1994年4月 水戸商工会議所会頭
1999年6月 常陽銀行取締役会長
2007年11月 第11代茗溪会理事長

● 伝統は革新とともにあり

『茗溪創基150年記念誌』は、第3章「茗溪後期1983―2022」で、期間を3期に分け、7名7代の理事長を紹介している。

茗溪会館改築の時代

第7代理事長 宮崎 正雄
第8代理事長 葭内善三郎

法人改革の時代

第9代理事長 足立原茂徳
第10代理事長 鶴川 昇
第11代理事長 西野虎之介

新たな試みの時代

第12代理事長 江田 昌佑
第13代理事長 井口 武雄

西野氏は、「法人改革の時代」において、改革を成し遂げた理事長として、茗溪会史に名を留めている。

昨年の初冬、西野氏の訃報を受けた。11月29日(火)早朝5時56分に入院先で逝去されたとのことであった。

時節柄、通夜、告別式は親族のみとし、銀行葬は別日に執り行うと連絡が来た。

西野氏が茗溪会理事長に就任されたのは、平成19年初冬、鶴川氏の急逝を受けてのことであった。

企業関係員参画の推進、茗溪会筑波事務所の開設と筑波大学との連携、そして、法人制度改革に伴う一般社団法人か公益社団法人かの選択など課題は多く、とくに法人選択の問題は、早急の解決を迫られる重大な局面を迎え

ていた。

西野氏は理事長就任挨拶の表題を「茗溪会の新生を託されて」とし、課題解決の基本姿勢として「伝統は革新と共にあり」という言辭を挙げた。

こうして3年が過ぎ、平成24年、一般社団法人となつて最初の総会(第一回定時総会)が開催された。選出された代議員を前に、西野氏は挨拶をした。「社団法人茗溪会は、公益法人制度改革に伴い新しい法人形態といたしまして、昨年の通常総会に於て一般社団法人を選択し、内閣府へ申請致し…本年をもちまして新発足致しました。…私は新体制発足を機会に、茗溪会理事長を退任することを決意いたしました。」

後年、西野氏は「特別インタビュー」で、常陽銀行に入行後、先輩に促されるままに「茗溪会日本橋」の会合に参加した時の挿話を述べていた。

「その集まりで私の紹介があったのですが、その紹介の仕方が、笑いなगरらではありましたが『こいつ西野は茗溪の裏切り者だが…』というものでした。教育界に進むのが正道、銀行に就職するなんて裏切り者というような紹介の仕方には、半分は冗談だとしても大変戸惑いを感じました。…それ以来、私には茗溪会では傍流意識と言いますか、茗溪会の中心からは遠いところにいるという意識がありましたから…その私を鶴川理事長の後任に推挙すると理事長の御意向は、まさに、青天の霹靂でした。」

故 西野 虎之介
お別れの会

日時 令和5年2月13日
場所 水戸プラザホテル

株式会社 常陽銀行



「お別れの会」は、午前と午後に執り行われた。コロナ禍の中での会であった。この時期にしては珍しく雨の降りしきる中を、多くの参会者が粛々と、ホテルのエントランスから式場へと進んでいた。

案内の末尾に「誠に勝手ながら、ご香典、ご供花、ご供物の儀は固くご辞退申し上げます」とあったが、式場へ続く廊下は白い花の供花が整然と並べられ、我々の誘いとなった。

常陽銀行主催であったが、スタッフの対応をはじめとして、その時間や会場の隅々にまで西野氏のご遺徳が偲ばれた。



時節柄、理事会の了解を得て、矢野常務理事、廣田理事、そして早川理事の3名が参列した。西野氏と直接お会いしたことがあるのは早川理事だけであった。早川理事が茨城県教育委員会の職員だった折、未来の県立高校はどうあるべきかについて協議した茨城県高等学校審議会で、委員長であった高校・大学の先輩の西野氏には大変お世話になったという。

西野氏は水戸市や茨城県の商工会議所の会頭・会長として地元財界人として活躍されたほか、茨城県の総合計画審議会や県高等学校審議会の会長として県政の発展に大きく貢献してきた。

お別れの会前日に、茨城新聞が二面に亘って追悼の特集を掲載した。茗溪会は井口理事長名で、「謹んでご冥福をお祈り申し上げます」と、茗溪学園とともに特集下欄に追悼広告を載せていただいた。茗溪会は、8面下欄、水中・水戸一高同窓会「知道会」と並んで掲載されていた。



「茗溪会の者です。その節はお世話になりました」と挨拶をした。矢野常務理事が「教育大の後輩です」と自己紹介すると、「あら、教育大なの」と、思いがけず弾んだ声が返ってきた。

「西野先輩は教育大第一期生で、私は西野先輩と同じ農学部で最後の修了生です」と申し添えた。廣田理事は「筑波大第一期生です」と紹介し、「早川理事は「私も矢野常務と同じく教育大卒です」と紹介した。

「あら、みなさん随分お若くらしい」という奥様の声とともに、ご親族の方も打ち解けた雰囲気となり、和やかな中で、「茗溪会ではお世話になりました。理事長をはじめとして一同感謝申し上げます」と申し添え、その場を離れた。



式場に、西野氏の生涯がパネルに列記されていた。パネルの向こう、大スクリーンの下に、ご遺族が待機されていた。

追悼

第11代理理事長

西野虎之介氏

第12代理理事長 江田 昌佑

西野虎之介氏は令和4年11月29日に享年93歳の高齡をもって逝去されました。慎んで哀悼の意を表します。

氏は鶴川氏の急逝の後を受けて第11代理理事長として、4年余の間、その重責を果たされました。

時代の要請でもあった法人改革が待ったなしの課題でありました。茗溪会の主体を一般社団法人・茗溪会に、関連法人として一般財団法人・筑波学都資金財団、学校法人・茗溪学園中学校高等学校の3法人に改変し、夫々が独立性のあるものとされました。この歴史的転換点を乗り切れたのは、氏の英知の決断があつてのことでした。

本会に関する諸々のご貢献は、われわれ茗溪人にとって周知の事ですが、氏は元より銀行家でありますから、その功績の多くは財界、産業界等に燦然と有することは言うまでもなく、地元経済界の重鎮であられました。そして更には、県の教育審議会等にも深く関与されました。

社会への顕著なご功績で、平成23年秋の叙勲で旭日中綬章を受章されています。

氏の功績・徳望については、今更述べるまでもありませんが、一言で云えば、あの穏やかな語り口で、私どもに

絶大な安心感を与えて下さっていたこととは忘れられません。

私にとりまして氏の在任中は一方ならぬお教え、お導きを受けました。理事長と副理事長の間柄でもあり、一般的個人的な話題も含めて比較的多くの時間を持つことが出来たと覚えています。思い出すままに幾つかを述べて、氏への追慕の念を捧げたいと存じます。

氏は名門水戸一中（旧制）を卒業されました。教師（高師出身）の感化を受け、将来は教師になりたい希望のもとで東京高師理科に入学されました。がしかし、戦後の学制改革で、翌年に東京教育大学への受験となり、新制大学の一期生として農学部（農経）で勉学されました。

現在では想像もできない様な戦後の瓦礫の残った環境、日々の食べること最大の努力を傾げざるを得なかった当時の学生生活であつたことは、しばしば私共の話題になりました。私は一年遅れでの新制大学二期の入学の関係上、ほぼ同様の背景で日常がありましたので、よくよく共感したものでした。旧制中学時代に味わった学徒動員での軍需工場等での労働、戦時下の戦災や空爆での恐怖など、場所こそ違え、同じ様な体験を持ち合わせたことも、今となつては思い出させる少年時代の話題でもありました。

氏は最終学年で国家公務員試験上級職に合格し、農林省を志望していたところ、実家の強い要望で、地元に戻り常陽銀行に就職すべしとのことで、長

男故にその意に従つたと述懐されていきました。以来、55年の常陽銀行での勤務で、頭取、会長の重責を担われました。また、水戸商工会議所会頭をはじめ県の要職等を多く兼任されました。

茗溪学園の創設の当時、初代岡本校長の諸々の相談事を受けて下さつたと承知しています。このことは、岡本稔校長からもよく承つていたことです。

この事も関連してか、法人改革の三分割の際に、茗溪学園には残つて関与を続けたいとの強い意向がありました。

私が直接面識を得たのは、鶴川理事長が母校北原保雄学長（東教大卒）の依頼を受けて、母校の開学30周年記念会の募金会の役員会をスタートした時と記憶しています。その後、氏は地元経済界に、私は東京地区の企業体に足を運び、一年近く各社を訪問したものでした。

数年後、大学交流会館内に茗溪会筑波大事務所が開設することになり、前述の事などが遠因のひとつになったのではと喜んだこともありました。

平成23年4月、理事会内に財務審議会を設置して、茗溪会三法人の財務関係のレビューと見直しについて、理事長から諮問を受けました。ほぼ一年間の審議を経て、新法人発足に向けてと題して答申いたしました。

このことは、その後、新法人に移行する手立てとして役立ち、また、予定より一年早く新法人の発足となり、更に、次の答申「三法人発足3年を経過

して・中期将来計画」を作成することとなつて、本会運営の大綱をすることが出来たと認識しています。

昨年7月、茗溪創基150年記念事業の主行事として式典を挙行することができました。それを機に私は理事長職を辞しました。そして、第13代理理事長井口武雄氏が本会の運営の重責の任を担つて戴いています。

本会は前途洋々の船出となつていきます。

西野虎之介第11代理理事長の一貫しての信条でありました茗溪会の財政的経営健全化・合理化は、本会の運営理念の根幹として踏襲し発展の歩みを続けています。

氏のご功績、その足跡は茗溪会にとつて末長く語り継がれることと確信しています。

追慕の真情を捧げます 合掌



江田昌佑氏と西野虎之介氏の対談
2009年正月号から

西野 虎之介

元理事長を悼む

長瀬 要石

西野虎之介元理事長は、2022年11月に逝去なさいました。享年93歳でした。追慕哀悼の想いひとしおです。

西野さんは東京高師に入学し、1953年に東京教育大学の農村経済学を卒業されました。新制の一期生で、わたしの7年先輩です。茗溪農経会という同窓の集まりで、金融の講演を拝聴し歓談するなど、親しく兄事してきました。「農村経済学科で、経済学、経営学、社会学、教育学の基礎と農業・農村への応用を幅広く学んだことは、社会に出て役立ちました」と、学窓への感謝を語られたこともありました。

西野さんの級友に塚田實さん（元農林省農林経済局長）がいました。塚田さんの葬儀の帰り道で、「塚田君と国家公務員の上級職に受かったけど、僕は郷里で働く道を選んだんですよ」と、人生の岐路にあった青春の日の心境をもらしてもくださいました。

西野さんが常陽銀行の頭取に就任したのは、1993年のことです。前任は大蔵省OBの石川周さんでした。石川さんが国土事務次官のとき、わたしは国土庁の計画課長でしたが、視野が広く剛直な方でした。93年といえば、バブルが崩壊し、不良債権問題が日本経済を奈落の底に落としかねない不況の前夜です。金融システムは崩壊の危

機に瀕していました。石川さんは、慣例を排して大蔵省から後任を招かず、生え抜きの西野さんに舵取りを託したのです。沈着冷静で的確な判断がくだせる西野さんをおいてほかに迫りくる困難な局面を乗り切れる人材はいないと、判断したに相違ありません。実際、西野さんの頭取としての6年と会長としての6年は、ほとんどの銀行にとって、不良債権処理と経営革新の正念場だったのです。

常陽銀行の会長になられた西野さんは、活動の軸足を社会公共の領域へと移していられました。茨城県経済界の重鎮として多くの公職を歴任しただけでなく、筑波大学の経営協議会委員として、母校の発展に参与なさいました。そのとき強調しておられたのは、大学と同窓組織が手を携えて進まなければならぬということでした。茗溪会の理事から副理事長をへて理事長に就くのは、必然だったといえます。

西野理事長に課された最大の課題は、公益法人制度改革への対応でした。茗溪会は永らく(旧)民法第34条に基づく公益法人でした。ところが2008年末、「公益法人改革三法」が施行されました。政府の認定を受けた新しい公益法人になるか、一般法人になるかの二者択一を迫られたのです。理事長は「新しい公益法人はハードルが高い」と述べ、「根本に立ち戻った議論」を広く会員に呼びかけました。

江田昌佑副理事長が検討委員会の委員長となつて、コンサルタントの手も借りながら資料を集め論点を整理し、

白熱した議論が重ねられました。新しい公益法人になるためには、「公共性」を優先しなければなりません。会の第一の目的を「学術、文化、教育等の進展」におかなければならず、「会員相互の親睦、互助、啓発」は二の次になつてしまいます。そのうえ、公共目的に経費の半分以上を充てなければならぬという縛りもありました。実は旧制度下でも、文部省から「公益法人なのだから公益事業をもっと増やせ」という厳しい指導を受けて、苦渋を味わってきた経緯がありました。

従前から、政府には「同窓会や同好会は公益法人として適当でない」という方針があったのです。理事長はこの点を十分認識なさつたうえで、性急に持論を押しつけず、議論が落ち着くべきところに落ち着くのを、辛抱強く待つておられました。2011年度の総会で理事長は、「同窓会組織は公益法人には馴染まないという国の方針もあり、私どもの組織は『一般社団法人』の方向を選択したのです」と挨拶しました。「絆」を確かめ「新しい茗溪会」を目指して、「第一歩」を印そうと訴えたのです。「一般社団法人」に衣替えしたのは、2012年4月1日でした。

わたしは、茗溪会の理事を仰せつからつてから20年近くたち、70歳台半ばにさしかかってもいて、理事を辞したいと申し出ました。秘書官として仕え慈愛と薫陶を賜った福田越夫先生の、金権政治に抗し理念に生きた90年の生涯の集大成に一意専心したいと考えたからです。その折、西野理事長と江田副

理事長から「もう少し理事にとどまらないか」と、暖かい言葉をかけていただいたことを、忘れることができません。共著『評伝福田越夫』（岩波書店）の上梓までに8年の歳月を費やしてしまいました。

西野さんは、優れた銀行家であり卓越した経営者でした。心底に流れていたのは、人づくりこそ社会の礎だという理念と連帯の思想だったと思われます。水戸第一高校の同窓会長、茗溪学園の理事長、我が茗溪会の理事長を歴任されたのは、その証左でもありました。

西野元理事長の篤実なお人柄を偲び、数々のご業績を讃え、ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。どうぞ、安らかに眠りください。



茗溪会筑波事務所開所式にて 西野虎之介氏(中央)



駒場寮は昭和53(1978)年に閉じた。全国から歴代の寮生200名程が駆け付け、「大閉寮式(終焉大パーティー)」が茗溪会館で行われた。その集合写真である。昭和53年3月4日(土)であった。

Peer Garden

茗溪アルバム 茗溪創基150年記念事業

茗溪150年の思い出を紡ぎませんか？

駒のいななき

昨年9月22日、岩国から封筒が届いた。2冊の本と写真、手紙が同封されていた。

「私は昭和53年3月東京教育大学(教育学部芸術学科構成専攻)を卒業した茗溪会員の清水一郎です。最後の教育大卒業生です。農学部構内の駒場寮に6年間在寮し閉寮当時は副寮長でした。」

10月15日(土)に山口茗溪会の総会が予定されていた。清水氏に電話をした。総会でお会いし、その後、取材を兼ねた懇談の申し出に快諾してくれた。新型コロナウイルスの感染拡大で、山口の総会は中止となり、会えずじまいとなった。

駒場寮は、昭和53年に閉寮した。

閉寮に併せて、『駒のいななき』最終号が刊行された。十数年来休刊となっていた駒場寮の文芸誌である。最終号の構成は、歴代の寮や寮生の写真、寮の歴史や地理、バックナンバーからの抜粋、各年代の寮生活の思い出、そして寮生名簿からなっていた。全92頁の大部である。

編集委員の高木信行(S46地学MC)は、編集後記を記した。

「終戦から30余年、茜に映ゆる学舎に、ヒマラヤ山を仰ぎ見て、ギリシヤの賢をうそぶけば、朱葉はやけて酒ぬるむ、

と駒場の地に響きわたった美声も聞かれなくなる。寮先輩諸氏の輝かしい行いを記した落書きも消滅する。」

各頁の隅に落書きが掲載されていた。

❖ここに入る者 存在を捨てるべし (中2階 9号室扉)

❖女はいらぬ男が欲しい (北 14号壁)

平和はいらぬ革命が欲しい

❖学寮とは革命戦士の練兵場である (寮務委員会室)

❖秘めたる想いは哀し

そぞろ鳴く虫の声さえ涙さそう

ああ：片想いぞあわれ： (中2階 壁)



寮生名簿は、昭和18年入学生8名から始まり、昭和52年入学生4名まで、計783名の寮生が掲載されていたが、名簿作りは困難を極めたようである。住所不明や姓名の揃わない寮生も散見された。

「大学の学務係に照会したり過去の寮生のネットワークを頼りに調査し、徐々に歴代の寮生の現住所や勤務先が判明」したと、清水は作成時の苦労を記す。

『駒のいななき』は、昭和33年頃の創刊で、「多数ある佳篇」から数点を『駒のいななき』拾遺」として掲載した。「特集 寮生活」で、佃収(S33数学*)は、「僕が入寮した所は実は今食堂を新築している馬小屋であった。当時北寮と呼ばれていた」と、当時の寮を描写する。

*以後、()内は、入学年度とする。

佃が一年の後半に駒場寮はできた。「新築の寮には何の設備もなかった」ように、寮務委員となった佃は、学務課や会計課へ足を運び、「食器、食器棚、下駄箱、すのこ、黒板、掲示板及び炊事用具等」を揃えた。「食器棚や下駄箱は僕が設計した」と苦労を綴っている。



▲中寮



◀北寮

●駒場寮の推移

「駒場ヶ丘の暁の鐘―農教時代」と題した特集の冒頭に、昭和20年に入学した林昭二(S20農教)が回想を寄せている。「駒場寮の推移」として貴重な記録と思われた。

駒場に学生寮が開設されたのは、昭和20年秋だと、林は当時の記憶を辿る。

初めに、中寮と南寮が開かれた。戦地や動員先から続々と復員・帰校してくる学生のために、急遽開設された。

「輜重連隊の二階建兵舎を改造した中寮跡が：附属駒場高校であり、グラウンドを隔てた平屋建の小さな兵舎が南寮でこの方は2年位続いたろうか。池尻方面の低地を見渡せる崖の上」にあった。

「中寮に遅れること2年位して開設された平屋の馬小屋を改造した北寮は道路をへだてた飛び地の分教場の隅にあった。また、井の頭線の旧駒場駅の真下の水田を隔てた真向いの小高い丘には、女子寮として早苗寮があり、これは中寮・南寮が閉鎖された昭和24年春には東雲寮と改名され、更に現在では駒場寮とよばれているらしい。」：こうして、中寮、南寮、北寮、早苗寮、さらに、東雲寮、仰峯寮の統廃合を経て、「大駒場寮」となったということである。

●駒場寮事始め

さて、昭和20年、終戦時の世相を背景とした寮生活が林の記述に垣間見える。

「中寮は約30室で各部屋には板の台が置かれ我々はこれを寝台と呼んだ。」「夜になると寝台や板壁の隙間から南京虫がはい出してきて首筋や手首をやられた。」

中寮は約120名、南寮は20〜30名、北寮は30〜40名で、最盛時は3寮で180名を擁していた。復員や引揚の学生でこった返っていた当時の様子が伝わる。

寮生が「一番頭を痛めたのは燃料の確保」で、哀れだが滑稽な事件もある。

ある寮生が自炊燃料にするため、学
校職員が用便中とも知らず、便所の板を剥ぎ取るうとして殴打された。見咎めた寮生達が暴力は許さじと学生課に
大挙して押しかける騒動となった。

また、ある時は、燃料確保に万策尽
き、寮生大会を経て、食堂裏の傾斜地
や校庭の周辺に聳える大木を伐り倒す
挙に出た。林科の教官室から素知らぬ
風を装い借り出した大鋸で、「各部屋
毎に倒したり、細かく割ったりする使
役で処理した。」

その後、当然のことながら、「何と云
う事をしてくれたか！武蔵野の面影を
残す貴重な名木群であったのに！」と
林科の教授の悲憤慷慨が待ち受けてい
た。寮長であった林は、「百余名の生活
を担っているのだという気負い」もあ
り、叱責を甘受したが、「30年経過した
今も、もつと真剣に対策を講じておけ
ば伐り倒さなくてもよかったのではな
かったか」と悔恨の思いを記していた。

一枚の写真に「青春の或る時代の証
しとして懐かしい」と、林は追記する。
写真の中の「どの顔にも土に生きよ
うとする者の素朴さと生真面目さが溢
れて」いた。その中に、「駒場寮生の馬
力を遺憾なく発揮していた：農教（脳
狂ともいう）ラグビー部の連中」と「金
を出し合って神泉の飲み屋に同行した
ことがあったが、口ほどでもなく美女
を前に俯いてしまった猛者達の純情振
り」が今なおお臉にあると、林は懐かし
む。



昭和22年9月28日、中庭の築山を背に、鹿児島青年師範に転勤することになった鱈坂二夫教授を囲んで中寮生90余名が集まった。全員のキャンパで林が三越から買った帆船の模型を贈っての壮行のときである。模型を抱えて立つ鱈坂教授の姿が中央にみえる。

北寮は元獣医学学校の駒場分校跡で、馬の繋留、水遣り、飼葉を食わせる施設があり、学生はその施設を洗濯場としたり洗面所として利用していた。

原田龍志(S25)は、「寮生会議、寮祭、炊事当番、汲取当番など数多くのことが脳裏をかすめる」と回想するように、寮は学生の自治で運営されていた。

「生徒の不規律千万なる、日本服着流しという有様で、寄宿舎に至れば、将棋盤あり、碁盤あり、火鉢あり、煎茶道具あり、その傍らには袋入りの煎餅あり、畳の焼焦げあり、また廊下などに行き会っても敬礼するもの無い」という体たらくで、「師範学校が斯くの如き有様なるに於ては、到底国民教育の振興は思ひも寄らぬことである。」

明治18年、茗溪会事務所が本郷元町

に移転した直後の8月、森有礼は東京師範学校監督に就任した。右の記録は、文部官僚江木千之の回想であるが、「森文部大臣が未だ参事院議官として文部省の御用係兼務であった頃の事、一日東京師範学校を視察した」時の高師生の様子と森の反応が見事に描写されて
いる。

当時の寄宿舎は、遠方の学生の居住確保のための厚生施設として設置された。師範学校の寄宿舎においては、公費生を入舎させ、規則を定め舎監を配置するなど、舎内管理をしてはいたものの、森の満足のいく状態ではなかったように、江木の描写からその慨嘆ぶりが窺える。



昭和44年(上)と昭和47年(下)の寮生『駒のいななき』所収

駒場寮生の集合写真がある。ドテラ姿が散見される。そのまま授業に出かける寮生もいた。桐花寮も同様の光景が見られたに違いない。

昼日中の寮室に寝間着き姿でごろ寝する寮生を目の当たりにして、入寮手続きを終えた新入生と付き添いの親御が腰を抜かすほど驚く情景も想像でき
る。

この様子を見た森有礼の反応はどうだろう：「学生自治など笑止千万」というだろうか：思い巡らすだけで嬉しい。

桐の葉

昨年12月8日、仙台からレターパックが届いた。宮城野区にお住いの今部治朗氏（S34）からであった。『桐の葉―閉寮記念誌』と『若竹の像』という名のパンフ、そして、『昭和34年度東京教育大学桐花寮々生名簿』が入っていた。



開くと表紙と本体が外れてしまった。1959年発行の名簿は、紙質が脆弱である。このボロボロになった名簿を半世紀以上、大切に保管されていたことに、驚嘆する。

●名簿から桐花寮を眺める

寮生名簿の表紙に、4―5今部氏蔵書とある。桐花寮は4寮あった。各寮20室、各室には4人の学生が寝起きしていた。今部は、第4寮5室で、「特教4、谷地高、山形県西村山郡：」と記されていた。学科名、学年、出身高、帰省地が名簿の記載内容である。他と違い、第4寮は全員が4年生で、第20室は休憩室である。

4寮の他に分寮があった。全15室で、各室の入居数は1名〜6名とまちまちである。また、第1室は「役員室」となっていて、2学年の4人が在室していた。

今部が入寮した昭和34年は、キューバ革命とメートル法実施に始まり、昭和基地からタロとジロが生還した。3月には「少年マガジン」や「少年サンデー」、翌月に「文春」など週刊誌が創刊された。

皇太子が御成婚され、6月、天覧試合で長嶋が阪神村山からサヨナラ本塁打を放った。この年前半の出来事である。

戦後十年、日本は、東京五輪を経て、高度経済成長の道をひた走る。

昭和24年、国立大学設置法の公布により、母校は、文理大、東京高師、東京体育専門学校、東京農業教育専門学校を包括して、文学部、理学部、教育学部、体育学部、農学部を持つ総合大学として発足した。東京教育大学である。

東京教育大学の学生寮の歴史は、その開学・閉学と軌を一にする戦後30年ほどの期間であった。

●桐花寮―上板橋宿舎

『桐の葉』は、「桐花寮（東京教育大学上板橋宿舎）戦後略史」として、以下の4期に分けて総括している。

「一つの運命共同体的な連帯感につつまれた敗戦直後、高らかに自治の精神をうたいあげた一九五〇年代後半期、

その精神を擁護しそのために苦闘した六〇年代、そして「筑波」から閉学への六〇年代後半から七〇年代」（同8頁）

「それぞれの学校が、歴史と社会とのかかわりに於て、どんな役割を果たすことを要求されて、また果たしてきたのか」をみれば、「高師と教育大との間には、歴史的にみて天地程の差があるだろうし、教育大と筑波大の間にも、それと匹敵するほどの差があるだろう」（同64頁）と、高村佑（S37西洋）が言うように、それぞれの学寮にも時代背景とその拠つて来る役割がある。

桐花寮は、戦前と戦後に分かれる。戦前の桐花寮は大塚校内にあったが東京大空襲で焼失していた。

戦後の桐花寮は、「高射砲陣地跡の仮兵舎、弾薬庫から始まる。《仮兵舎》と言えば聞こえがよいが、要するにバラック、掘立小屋に近い。当時貴重品のガラスはろくになく、床板は所々になく、縁の下からは寒風が吹き上げた。」（同9頁）

明治19年公布の「師範学校令」は、「順良・信愛・威重」の徳性を備えた師範学校生の育成を目指した。具体策として、「生徒気質訓練に関する訓令」が発せられ、その徳性を育む気質鍛錬の場として寄宿舎を意義付けた。

これを受けて、高等師範学校では、寄宿舎における寢食座臥、室内整頓法などが細かく規定され、在舎生は軍隊的分団組織に編成された。

戦後に再建された桐花寮は、兵舎を借用した学寮ではあったが、「伍を組み隊を編む」兵営式の寄宿舎運営という構想の下にはなかった。

●不幸な境遇での不幸な出会い

昭和23年、高師に入学した中川誠は、北寮第6室、12畳に8名の寮生活を「ひどい生活であった」と回想する。

「万年布団の足元に小机を置いてその下に足を入れて寝た。全室ともベニヤ板で仕切られているだけで天井がなかった。暗い裸電球がぶらさがっていた。掃除もせずに布団を敷き放してある部屋の隅から時々キノコが生えだしていた」。



昭和22年頃、天井が無く梁が剥き出しの寮室。手前は炬燵風にして暖をとる寮生。

『桐の葉』所収（廣田氏提供）

寮生は「飢えた敗残者の群れ」のようで、「陸海軍からの復員者と高校の落ち武者が多く、共同体意識がほとんどなかった。敗北感が充満していた。ただ自分の胃袋の事はかり考えていた。背中を向けてコソコソと食べる同室者もいた」。このような光景を、中川は、「不幸な時代の不幸な境遇での不幸な

出会いであった」と表現した(同30-31頁)。

「夜更けの東上線を上板橋で降りると、駅前中華ソバ屋の赤提灯がひとつだけともっている」。

家庭教師帰りの描写から始めた後藤雄幸(S27漢文)は、「不幸な時代」から5年後の寮生である。「ほこりの舞っている土間で靴を脱ぎ、板の縁にあがって障子を開けると、ちよつとした板の間に靴箱がある。その向こうに畳が十枚ばかり敷かれている。部屋の四隅と窓側に、五つの机が書棚代わりの蜜柑箱で隔てられ、布団の山が並んでいる。両側には頭のかかえる所に荷物置ききの棚があり、柳行李がいくつか乗っている。部屋の真ん中に大きな火鉢が一つ…部屋は寒々としていた」。



昭和30年頃、トタン屋根の渡り廊下の向こうに布団干しが並ぶ。渡り廊下に向かう学生服姿は、寮生だろうか。颯爽として身なりも良い。『桐の葉』所収(小島氏提供)

相変わらず「不幸な境遇」ではあるが、「中の雰囲気はなごやかで、勉強に

倦むと、お国の話はずんだ」とあるように、「不幸な出会い」とまではないかなかったようである。

その後、火鉢は消防法上の都合により、撤去されたのであろうか。「火が出れば5分か10分だと消防署から言われていたあの建物は、よく燃えもせずに残ったものだ」(同36頁)と、吉田等(S41国文)が回想し、その理由に「寮には長いこと暖房器具が無かったこと」を挙げている。

東京五輪から数年を経た冬である。「ストーブ闘争」があった。ようやく暖房器具が給付されることとなったが、肝心の灯油の備えはなかった。「油が支給されないならストーブの支給を拒否してこの冬も過ごそう」(同36頁)；冬越え覚悟の果敢な主張もあった。

● 人生の処し方

ストーブ闘争より10年前の昭和31年、布川清司(S31倫)の入寮先は「15畳敷きの部屋に7人。布団を敷くと空いたところがほとんどなくなる」常盤台駅近くの桐花寮分寮3室であった。「入り口近くに居場所を与えられた私の布団は、皆の足で踏まれてたちまちのうちに薄黒く変色した」と相変わらずの悪環境ではある。

布川は、その夜、先輩に酒を誘われる。酒など飲んだこともなく当惑する布川に、「こんなときには誘いに応じるものだ」と、先輩が「人生の処し方」を手ほどきする。「人生との組し方」も教わった。

「小さな私をして初めて池袋駅頭で

メガホン片手に道行く人々に呼びかけ」たり、寮内に強制捜査が入るといふので、「寮の手前の公園のブロック塀に潜んでいた私は、ブロックの隙間から、近づいて来たパトカーのライトを浴びて、全身の血が逆流するような戦慄を覚える」体験もしている。

「寮生の安全と寮の自治を護ろうとする、やむにやまれぬ私の情熱からの行動であった」と、布川は当時を振り返り、「他人には何の感興も与えない小さな出来事であろうが、私の個人史にとっては忘れられない重要な出来事だった」(同33頁)と結んだ。



2寮より4寮を望む。『桐の葉』所収

吉田等と同年の須山敦行(S41漢文)も、「人生の処し方」の手ほどきを受けた「野村先輩のこと」を記している。

「上板駅の向こうの喫茶店」で、「砂糖を入れた後スプーンを茶碗の向こう側に置く」というマナーを、コーヒの飲み方として教わる。これが最初であった。

「生活全般の基本」を教わった。掃除当番の時である。「先輩は…さ

あ、やるぞ」と部屋の一年生を引き連れて、寮の中でも最も汚いあの便所へ飛び込んでいき、水を使いゴシゴシやりだした。掃除当番はもとより、「夜の寮生大会への出席や寮祭等の諸行事」への参加についても厳しい手ほどきを受けた。須山は、こうして、「民主主義の基本」を叩き込まれたと述懐している。

「男の道」も教わった。

「先輩は話をしているも平気で屁をした。私は母が人前で屁をする人を失礼だと強くののしっていたのを覚えていたので、これには度肝を抜かれた。私は便所以外で屁をしたことが無かったので、それから練習してみた。また、ある時は、小便の後には手を洗ってはならないと教えてくれた。男は構造上そうなっているのだと」(同38頁)

昭和45年3月、受験生の森尾嘉昭(S45健康)が桐花寮に仮宿した。寮役員が懇切に対応し、「試験最後の夜、合格祈願のコンパ」までしてもらい、その席で、「合格したら、寮に入って寮役員をやれ」と言われた。入学(入寮)した森尾を、全寮委員長や事務局からの誘いが待ち受けていた。新参者を寮役員に仕立てる常套の手口らしく、こうして、森尾の寮生活が始まったのだが、先輩たちの目論見通り、森尾は、昭和46年度後期、翌年度前期の全寮委員長となっていた。

昭和48年、新入生歓迎コンパである。次代の担い手を得ようと、森尾は宴を盛り上げ、深酒をして騒いだようである。

真夜中に、リヤカーを曳く一団がぞろぞろと茗花寮(女子寮)に向かいストームをかけた。一団は寮歌を謳い退散したのだが、酔い潰れた森尾と数名が一晩、寮内に居座ってしまった。その所業に茗花寮生が激しく抗議したのは当然であり、森尾が寮生大会で謝罪して落着いた。その後もストームは続いたが、森尾は「いつも制止役に回った次第である」と回顧していた(同51頁)。

●青春のすみか

「六人兄弟の末っ子」として育った桐山昇(S39東洋)は、「初めて他人の中で生活するのを、まるで兵舎に我が息子、我が弟を送り込むかのように」案じる母姉と指定された寮室の前に立った。

昭和39年、東京五輪の年、四月初めの午後である。一寮14室の扉を開けると、寝間着姿で寝ころんでいる寮生の姿があった。驚く桐山本人はもとより、母と姉は、その情景を目の当たりにして、「末っ子」をこの「兵舎」に置き去りにすることに、心を痛めたにちがいがなかった。

こうして、母と姉が寮までついてきたことを揶揄されながらも、先輩から呼び出されて飲めない酒を飲みにつれ出される桐山の寮生活が始まった。

「人前で話すことが苦手だった」桐山は、昭和40年に、前・後期全寮委員長となり、「いつの間にか演説をするようになっていた」。寮運営や活動に関わるうちに、「私の人生観、人間観、ある意味では私の性格すらも大きく転換した」(同34頁)と桐山は回想していた。

寝間着姿で寝転がって桐山の母姉を驚天動地させた寮生は、高村佑である。

「たかだか一杯百円程度の焼酎やホッピーを呑み、徹夜で討論することができた。彼等の大部分は日本育英会の奨学生であったが、支給日の晩は同室の仲間同士でコンパをやるのが常だった。そして、たとえ顔見知りでなくても、アルバイトを快く世話してやるという共同体的連帯精神にあふれた」寮生達を、高村は「桐花寮の挽歌」(同65頁)に記した。

桐花寮の「閉寮記念のつどい」は、昭和52年10月8日に開催された。65名の参加者が『桐の葉』に掲載されている。



東京教育大学桐花寮閉寮記念誌『桐の葉』(1978年3月26日発行)

家永三郎氏は「ごあいさつ」の中で、桐花寮を「光輝ある学園に学ぶ学生諸君の生活の場所としても、また学生自治活動の拠点としても、きわめて意義ある役割を果たしました」(同80頁)と評した。

その学生自治の淵源は、「人をして《山賊の巣》と言わしめた20年代初期にあって、互いの口コミでアルバイトを紹介しあい、米を分け合い、サツマイモを買い出すなど自活生活を支えた互助の精神」に見ることが出来る(同

74頁)と、実行委員長の宮本健氏(S39哲学)は「閉寮記念のつどい」の挨拶の中で指摘し、さらに続けて、「一貫していえることは貧しくとも、学生生活を送り、卒業後大いに活躍する基礎を培ったこと、又、単なる安宿、アパートではなく、共同生活を通じ規律を学び、生活者たることを学び、自ら主体的形成を成し、文字通り《青春のすみか》であったのではなからうか」と結んだ。



昭和30年頃の食堂。奥の食器棚に「食事のアタック禁止」と書かれた張り紙がみえる。どういう意味だろうか。『桐の葉』所収

『駒のいななき』に橋本修(S42林)が記した巻頭言から一部抜粋して終える。

廃寮ーなんと寂しい言葉だろう
廃寮ーなんと人間味のない言葉だろう
廃寮ーなんと腹立たしい言葉だろう
廃寮ーなんと悲しい言葉だろう

我々にとって記念すべきことは何もない。反記念!…これから春になり、厳しい冬をこした木々に新緑の芽がふさだす、その季節に、もう駒寮はない。駒寮寮が、一番美しく見える季節なのに。

*文中では、敬称を略させていただいた部分もございます。ご容赦ください。

思い出の品々の寄贈(お願い)

茗溪創基150年記念事業

「茗溪創基150年記念事業」への参加のあり方として、「思い出の品々」を寄贈していただく企画を実施しています。

1. ご寄贈いただく「思い出の品々」について
 - ・「思い出の品々」につきましては、その内容の指定や限定はございません。
 - ・ご提供頂く場合、「簡単な説明」等を添えていただければ幸いです。
2. 送り先
 - ・電子資料は、メールにて(peer@meikei.or.jp)までお送りください。
 - ・郵送先は、「茗溪会大塚事務所」宛てに願います。

〒112-0012 東京都文京区大塚1-5-23 茗溪会館内(電話 03-3941-0136)

筑波大学は今

「カーボンニュートラル社会の実現に向けた筑波大学の挑戦ーDESIGN ENGINEERING機構設立記念シンポジウム」を開催



3月13日、「カーボンニュートラル社会の実現に向けた筑波大学の挑戦」と題し、「DESIGN THE FUTURE機構設立記念シンポジウム」を開催しました。当日は、学長の開会挨拶、農林水産省大臣官房技術総括審議官兼農林水産技術会議事務局長 川合豊彦様からのご祝辞、西尾チツル DTF機構長からのDTF機構についての説明、株式会社豊田中央研究所エマージングエナジー研究部門長 田辺稔貴様による基

調講演の後、本学学生によるSDGs活動の紹介がありました。

また、「カーボンニュートラル社会の実現に向けた筑波大学の挑戦」をテーマとしたパネルディスカッションも行われ、盛会に終えることができました。

筑波大学マレーシア海外分校の設置について

筑波大学マレーシア海外分校の設立に向け、3月14日、マレーシア政府はカレド高等教育大臣、日本政府は外務省、文部科学省を代表して在マレーシア高橋特命全権大使が政府間協力覚書に署名しました。

署名式には、本学から辻村真貴マレーシア海外分校設置準備室長が立会人として出席しました。

本学は、日本・マレーシア両政府での設置認可に係る諸手続きを経て、順調に進めば9月に開校する見通しです。



左から、メガット副次官、カレド高等教育大臣、高橋特命全権大使、辻村準備室長

えがおカフェ「大学と連携した知的障害生徒の職業実習」を開催



令和4年6月、9月、12月、令和5年1月、2月に東京キャンパスにて作業製品販売会、および、キャンパス敷地内の清掃作業（教室や学生ホールの清掃、屋外環境整備）に高等部全員で取り組みました。6月の初回から2月14日の最終回までコロナ禍にも関わらず、販売会には沢山のお客様がご来場下さり、お褒めの言葉と共に買い上げ下さいました。また、清掃活動・環境整備に取り組む生徒たちにも温かいお言葉をかけて頂き、警備員の方々が活動しやすい環境をご提供下さると共に作業中の安全を見守って下さるなど、多くの方のご理解とご協力を得て、充実した職業実習に取り組みことができました。

さらに、筑波大学に関わる沢山の方のご支援を受け、昨年12月14日には初のつくばキャンパス販売会を実施、多

くの方にご来場いただき、次年度にむけて弾みをつけることができました。これからも「大学との連携」「社会とのつながり」を意識した職業教育の実現を目指します。引き続きご理解とご協力をお願いいたします。

ウクライナ留学生が研修ツアーに参加。茨城県の文化や風景に触れる

3月15日、筑波大学で学ぶウクライナからの留学生と茨城県内在住のウクライナの人々が参加した研修バスツアーが行われました。笠間焼の絵付け体験や梅花の季節になっている水戸・偕楽園を訪れました。

普段はキャンパスにいたことが多い留学生にとっては、地元・茨城県の文化や風景に触れる良い機会となりました。日本人のチューターや地元の支援者も交えたおよそ60人のバスツアーは、公益財団法人・日本財団の助成を受けて実現したものです。



万物が5種類の元素「水、火、土、金属、水」で出来ていると考えた(五行説)。さらに、ギリシャの哲学者たちは「土、空気、火、水」が万物を構成すると考えた。紀元前3世紀にアリストテレスはそれらを「元素」と名付け、さらに、天を作っている第5の要素「エーテル」を加えた。さらに、デモクリトスは物質をどんどん細分化すると、究極的なものとしてアトムス(原子)になると説いた。その後、中世では錬金術により、亜鉛、アンチモン、ヒ素等が発見されたが、17世紀までの長きにわたり、4元素説が正しいと考えられた。17世紀に入るとボイルが実験や測定を重視すべきだと主張して、4元素説を否定した。更に、18世紀にはラヴォアジエが元素と化合物の違いを明確にして元素の概念を確立した。その結果、元素が化学反応によって分離することのできない基本要素であることを明らかになると、多くの化学者たちは元素の探求に乗り出した。18世紀の後半では近代化学の発展から元素の発見が相次いだ。ドルトンが原子説を唱え、原子は実在するものであり、それぞれ特定の質量(原子量)があると発表した。

こうした中で、元素とは何か、元素同士の間で何らかの法則があるのだろうかという議論が活発になってきた。1869年、メンデレーエフは19世紀の半ばまでに発見された63種類の元素を、“原子量と化学的性質の類似性”から配列された周期表を発表した。その表には数か所に空白があり、彼は新元素の存在を指摘したことはきわめて注目すべきことである。この予言はその後の実験で見事に証明された。20世紀前半には、科学技術の急速な発展の結果、92番目までの元素が自然界に存在することが判った。近年、欧米にて人工元素の合成が進み、118番目までの元素が確定されている。2019年はメンデレーエフの周期表の発見から150周年に当たり、国連から元素周期表年と制定され、世界各地で元素に関連した様々な行事があった。

2. 元素と原子の違い。

ボーアの原子模型では中心に正電荷を持つ陽子および中性子からなる原子核があり、その周りに約1/1840倍の重さの負電荷を持つ電子が存在する。原子は全体として電荷を持たずに中性である。そして、原子の直径は約 10^{-10} m 原子核の直径は約 $10^{-14} \sim 10^{-15}$ mである。高校の教科書では幾何学的な表現として、“原子全体の大きさをドーム球場(直径200m)”と仮定すると、原子核の大きさは中心に置かれている1円硬貨に相当する”と例えられている。最も単純な水素原子では1個の陽子と1個の電子から構成され、具体的な粒子を表わす。

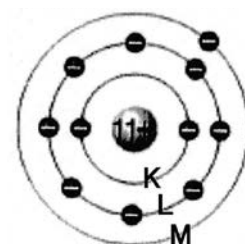
一方、元素とは原子の化学的性質に与えられた抽象的な概念であり、陽子の数で分類される。従って、原子はひとつ、ふたつと数えるが、元素は1種類、2種類と数える。トリチウムには1個の陽子、1個の電子に加えて2個の中性子が存在し、水素の同位体(アイソトープ)と呼ぶ。ここでの化学的性質とは化学反応の仕方、原子間の結合を意味し、同位体はほぼ似た性質を持つ。一方、物理的性質とは原子の質量、沸点・融点・比重をさし、同位体によって異なる。天然に存在する原子は同位体を含むので、それらの加重平均の値が質量となり、原子の質量は整数ではない。水素原子は微量の重水素(1個の陽子、1個の中性子)、超微量のトリチウムを含むためにその原子量は1.00784~1.00811となる。

3. 元素周期表の見方。

- ① 代表的な元素名の由来と発見年を示す。
- ② 元素記号は標準的には大文字、小文字の組の2文字で表すが、1文字の元素も14種類ある。
- ③ 原子番号は原子核を構成する陽子の数を示し、¹Hのように左上に小文字を付ける。
- ④ 横軸では1周期から7周期までである。同じ周期の元素は同じ電子核を持つ。「電子核」とは電子が原子核の周りではほぼ同じ距離で回る軌道である。図では第3周期に位置する原子番号11のナトリウムの電子配置を示す。軌道Kには2個の、軌道Lには8個の、軌道Mには1個の電子が収容される。第4周期に位置する原子番号36のクリプトンは軌道Kには2個、軌道Lでは8個、軌道Mでは8個、第4の軌道(N)には8個の電子を収容する。
- ⑤ 縦軸では1族から18族までである。同じ族の元素はその最外殻の電子数は同じであり、似た化学的性質を持つ。順番に述べるとアルカリ金属(1族)、アルカリ土類金属(2族)、遷移金属(3~11族)、その他の金属(12~14族)、半金属(13~16族)、非金属(14~16族)、ハロゲン(17族)、希ガス(18族)のようにグループ分けできる。

発見年	元素名と記号	原子番号	由来(注:希=ギリシャ語、羅=ラテン語)
1766	水素 H	1	「水を生むもの」(希・hydro + genes)
1868	ヘリウム He	2	太陽(希・Helios)
1817	リチウム Li	3	「石」(希・lithos)
1791	チタン Ti	22	タイタン(ギリシャ神話Titan)
—	鉄 Fe	26	「強い」(希・ieros)
—	ゴールド Au	79	「輝く・黄色」(ヨーロッパ古語ghel)
1944	キュリウム Cm	96	キュリー夫妻(人名)
2004	ニホニウム Nh	113	日本(国名)

ナトリウムの電子配置



4. まとめ。

今回の講義では「美しい元素」に記載の“元素の基本”に関して数値を用いて説明した。次回からは「元素講話こぼれ話」という小欄に、元素単体及び数種の元素の組み合わせによる化合物が実用物質として多いに日常生活に寄与していることを紹介する。

元素講話

大嶋 建一

【プロローグ】

1957年8月27日朝日新聞に掲載された「東海村で平和利用の原子の火が燈った」という記事に目が留まりました。当時小学校6年の私には「原子の火」の意味を理解することは全く出来ませんでした。幸い、当日掲載のサザエさんの4コマ漫画には「原子炉」という文字がありました。父の波平さんはマスオさんに「いよいよ日本の原子炉にも火がついたね。」と伝えました。さらに、サンマを七輪コンロで焼いているサザエさんにこの新聞を見せ、「この原子時代になんたるきゅうへいなものを使っておる!!」と罵ったのに対して、サザエさんは“サンマを焼くにはこの原始炉がいちばんいいのよ”と言い返していました。中学校に入学後、理科の教科書には元素周期表があり、私が最初に興味を抱いた元素は92番目のウランであることが判りました。当時、元素の並び順を“水兵リーベの僕の船…”という語呂合わせの覚え方がありました。このことが動機になり、大学ではX線、電子線、中性子を用いた回折・散乱現象を利用した合金、無機化合物の結晶構造解析の研究室を選びました。1980年代の後半、東海村の日本原子力研究所(原研)にて、直径20mm程度の球状な金属ナトリウム単結晶試料を用いて中性子散乱実験を遂行出来たことは感慨無量でした。ほぼ、半世紀に及ぶ研究生活において数十種類の物質を対象としていましたので、それらを構成する原子の種類はたくさんになります。その過程で、最も役に立った資料は「元素周期表」です。最近、文部科学省製作の「元素周期表(第13版)―自然も暮らしもすべて元素記号で書かれている―」は豊富な情報がはめ込まれていますので、「一家に1枚周期表」として評判が高く、ぜひ文科省のHPから入手なさることを勧めます。



1957年8月27日朝日新聞朝刊 ©長谷川町子美術館

さて、私たちの体、地球という大地、さらには無限に広がる宇宙空間は限られた数の元素から成り立っていることが知られ、このことは万物の根源的な要素は元素であることに間違いありません。本講義では、私が監修しました「美しい元素―あらゆる物質の基本要素がわかる」(発行所：株式会社Gakken)」に記載されています“元素の基本”の内容を中心に紹介します。次回以降から本誌「茗溪」に、新たに「元素講話こぼれ話」という小欄を設け、元素に関連した情報をシリーズとして提供致します。

まず初めに、“元素の基本”の説明に入る前に、現在までに確定している元素周期表を説明抜きで示す。

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
1	¹ H																	² He
2	³ Li	⁴ Be											⁵ B	⁶ C	⁷ N	⁸ O	⁹ F	¹⁰ Ne
3	¹¹ Na	¹² Mg											¹³ Al	¹⁴ Si	¹⁵ P	¹⁶ S	¹⁷ Cl	¹⁸ Ar
4	¹⁹ K	²⁰ Ca	²¹ Sc	²² Ti	²³ V	²⁴ Cr	²⁵ Mn	²⁶ Fe	²⁷ Co	²⁸ Ni	²⁹ Cu	³⁰ Zn	³¹ Ga	³² Ge	³³ As	³⁴ Se	³⁵ Br	³⁶ Kr
5	³⁷ Rb	³⁸ Sr	³⁹ Y	⁴⁰ Zr	⁴¹ Nb	⁴² Mo	⁴³ Tc	⁴⁴ Ru	⁴⁵ Rh	⁴⁶ Pd	⁴⁷ Ag	⁴⁸ Cd	⁴⁹ In	⁵⁰ Sn	⁵¹ Sb	⁵² Te	⁵³ I	⁵⁴ Xe
6	⁵⁵ Cs	⁵⁶ Ba	◆	⁷² Hf	⁷³ Ta	⁷⁴ W	⁷⁵ Re	⁷⁶ Os	⁷⁷ Ir	⁷⁸ Pt	⁷⁹ Au	⁸⁰ Hg	⁸¹ Tl	⁸² Pb	⁸³ Bi	⁸⁴ Po	⁸⁵ At	⁸⁶ Rn
7	⁸⁷ Fr	⁸⁸ Ra	▲	¹⁰⁴ Rf	¹⁰⁵ Db	¹⁰⁶ Sg	¹⁰⁷ Bh	¹⁰⁸ Hs	¹⁰⁹ Mt	¹¹⁰ Ds	¹¹¹ Rg	¹¹² Cn	¹¹³ Nh	¹¹⁴ Fl	¹¹⁵ Mc	¹¹⁶ Lv	¹¹⁷ Ts	¹¹⁸ Og
			◆>	⁵⁷ La	⁵⁸ Ce	⁵⁹ Pr	⁶⁰ Nd	⁶¹ Pm	⁶² Sm	⁶³ Eu	⁶⁴ Gd	⁶⁵ Tb	⁶⁶ Dy	⁶⁷ Ho	⁶⁸ Er	⁶⁹ Tm	⁷⁰ Yb	⁷¹ Lu
			▲>	⁸⁹ Ac	⁹⁰ Th	⁹¹ Pa	⁹² U	⁹³ Np	⁹⁴ Pu	⁹⁵ Am	⁹⁶ Cm	⁹⁷ Bk	⁹⁸ Cf	⁹⁹ Es	¹⁰⁰ Fm	¹⁰¹ Md	¹⁰² No	¹⁰³ Lr

(注：◆：ランタノイド(57~71) ▲：アクチノイド(89~103))

以下では元素に関する基本的な事柄；1. 発見の歴史、2. 元素と原子の違い、3. 周期表の見方、について説明する。

1. 元素発見の歴史。

人類が地球上に誕生した以降、徐々に知恵が付き、「万物の根源的な要素は何か」を考える賢人が現れた。古代エジプト人は7種類の金属(金、鉄、スズ、鉛、銀、水銀、銅)と、炭素と硫黄などを知っていた。古代中国人は

孫文のおつかい

歴史はひとにあり

昨年暮の16日(金)午後、「中国で教育に携わった茗溪の方と中国人留学生について研究しているという方がいらしてます」と、局員が対応を相談して来た。執務室にお通しすると、若い研究者は、流暢な日本語で、黄潔萍と名乗った。

北京日本学研究センター修士課程を修了後に、故郷広西省の玉林師範学院で日本語を教えていたという。



黄潔萍(中山大學 歴史学科博士後期課程在学中)
論文発表の他に、以下の訳書もある。
洪沢龍彦『うつろ舟』(広西師範大学出版社、2017年)
谷崎潤一郎、牛夢鶴共訳『怪奇幻想倶楽部』(広西師範大学出版社、2020年) (中山大學研究室にて)

日本への関わりは、18歳の時に観た『東京ラブストーリー』であった。

柴門ふみ原作のこの作品は、昭和63年から週刊漫画誌に連載され、平成3年にテレビドラマ化され、大ヒットした。彼女は、その十年後にドラマと出遭い、

赤名リカ(鈴木保奈美)に憧れ、大学と大学院で日本語を専攻としたという。彼女が『東京ラブストーリー』に出遭った年は、北京五輪開催(2008年)が決定した年(2002年)であり、その年発足した第一次小泉内閣は「日中国交正常化三〇周年」を翌年に控えていた。その後、彼女は北京で日本語の研究に携わるが、北京五輪を目にしたのだろうか。

北京五輪の後、平成22(2010)年に、彼女は初来日している。半年間だが、東京大学の研究生として日本史を研究した。今回は二度目の来日である。

広西省といえば、桂林が東北部にある。西は雲南省、北は貴州省、湖南省、東は広東省と接し、南はトンキン湾に面する。南西はベトナムと国境を接し、北部には東西に南嶺山脈が走り、湖南省との境をなす。珠江流域が内陸部の多くを占める。



黄潔萍さんは、広西省での日本語教師を中斷して、東隣りの広東省にある中山大學の歴史学科博士後期課程で、「東京高等師範学校と中国の近代教育」(1896-1922)の研究を始めた。

中山大學は、広東省にある「華南第一学府」とも称される大学で、1924年に創立された。創立前年の開校式典で孫文が揮毫した「博學、審問、慎思、明辨、篤行」を校訓とし、大学名は、創立の翌年に死去した孫文の号「中山」に由来する。

黄潔萍さんは、「中山大學博士生国外訪学與合作項目」の援助による文化活動ビザで、神奈川県客員研究員として、暮れの2日に来日したばかりであった。

執務室で話が弾んだ。『茗溪創基50年誌』は、茗溪前期末に逝去した同窓として、根岸福弥(m28理)と内堀維文(m31文)を「嘉納薫風下の群像」として紹介している。黄潔萍さん手持ちの「東京高師卒業生来华年份及所在学堂表」に兩名の名があり、その話題で盛り上がった。

翌日、彼女からメールが届いた。

「昨日の初対面はあまりにも唐突でしたが、茗溪会館で熱心なご対応を賜り、そして筑波大学アーカイブス関連のご連絡までいただき、まことにありがとうございます。私の研究は「東京高等師範学校と中国の近代教育」(1896-1922)に絞り、もちろ

ん、「茗溪会」にも並々ならぬ関心をもっております。現在、東京高師の教師と中国人留学生の関連資料を収集しているところです。…歴史は人にあり：まして魅力に溢れた明治、大正時代の師範教育の分野は尚更です。」

以下、手懸けている研究の要旨を黄潔萍さんに紹介していただきます。

●黄潔萍論文「清末東京高等師範学校卒業生在華教育活動述論」(要旨)

周知のごとく、19世紀末期から20世紀初期にかけて、万人近くの中国人留学生が日本に留学した。同時に、全国各地の学堂に、日本から多くの学務顧問あるいは教師を招いた。

その中で、東京高師の卒業生については特に研究に値する。汪向榮の推定によれば、当時中国へ赴いた日本人教師の1/14は東京高師卒で、45名を数える。

稲葉継雄は東京高師と韓国の関係について、日清戦争、日露戦争を背景に、茗溪会は日本の国策に応じ、海外進出や植民地教育に参与したと指摘していたが、その後、学界は東京高師卒の内堀維文、足立喜六、中島半次郎、永江正直らの教育活動について、中国教育の近代化をもたらしたという積極面を認め、卒業生のうち幾人かは中国革命にも貢献した事実を認識するに至っている。

中国に赴いた東京高師卒業生の人数は統計より多く、実態を深く掘り下げた分析が必要があり、また、卒業生による高等師範教育に着目し、メデイ

アや論調に左右されずに、その教育活動に客観的な評価を下すべきだと考えている。

拙文は、『東京高等師範学校一覽』、東京高師卒業生の通信、国立公文書館の関連資料を活用しながら、東京高師卒業生の中国における教育活動の全容を明らかにする一方で、近代教育導入の先進地域（湖北省、直隸省）の個別研究を通して、教育活動を推し進める中で立ちほだかった伝統からの抵抗にも言及する。

考察を通し、次のような結論に達した。

一、清末、中国各地は学堂を設立し、近代教授法の重要性を認識し、日本から教師を招聘しようとした。安価な給料、低い転職率、豊富な学識を持っていた東京高師卒業生が好対象であった。二、当時、日本における国民教育の総本山とも言われた東京高師が、どのような経緯で中国に関心を持つに至ったか。

たか。

当時、日本には日中両国が提携して欧米列強の進出に対処すべきだという「東亜保全」の考えがあり、留学生教育に携わっていた嘉納治五郎もその一人といえよう。また、中国派遣の送別会で那珂通世が張之洞の『勸学篇』を引用し、周孔の道を守るべく諄諄と戒めたように、肝に銘じた東京高師卒業生は、清の官僚らに歓迎されたと想像できる。

三、中国各地で教鞭をとった東京高師卒業生は77人にのぼる。

1899年、招聘に応じた根岸福弥、古山榮三郎が湖北省の自強学堂で普通学を教えたのを皮切りに、その後、各地で赴任者が増え、1906年にピークを迎えた。

四、東京高師卒業生は、地理、歴史、化学、物理、算数、図画、体操等の普通学知識と、教授法、教育学等の師範知識の両面を備えており、中学堂、高等学堂、師範学堂、実業学堂で普通学と師範学を教え、画期的な成果をもたらした。

また、理科専攻者が理科を担当し、教育学専攻者が教育学を担当するというように、専攻に応じて科目を担当したことにより、学識や教学法などの面において、清の学生や朝廷からの称賛を受けた。

五、普通学は当時の中国にとって新規の学問で、科挙に必要とされないものだったので、当時の学生に好まれず、欠員や怠学者も多かったと想像できるし、教員も不足していた。そうした状況下で、東京高師卒業生は複数の科目や長時間の授業を命じられる場合もあった。児崎為楳は対応策として、「単級教学法の同時同教科異程度」を直隸師範学堂の東文専修科に取り入れ、機械的な暗記をこととしてきた中国の学生や教師に衝撃を与えた。

このように、近代教育の発展や科挙の廃止とともに、学堂の科目は経史子集から普通学に、教学も詰込式から啓発型教授法へと転じるようになった背景には、東京高師卒業生の力を無視できない。

東京高師毕业生来华年份及所在学堂表		
年份	学 堂	人名(毕业年限)和担任课程
1899	湖北自強学堂	根岸福弥(1895理科) 物理化学 古山榮三郎(1894文科) 歴史地理
1902	湖北武昌学堂	戸野周二郎(1891文科) 教育学
	直隸師範学堂	近本幸太郎(1899理科) 物理化学
1903	山東師範学堂	内堀雅文(1898文科) 教育学、普通学
	兩湖師範学堂	三澤力太郎(1901研究科) 化学 渡辺几治(1904研究科) 教育学
	成都高等学堂	和田喜八郎(1900文科) 教育学
	南通師範学堂	木村忠治郎(1896理科) 遠藤民次郎(1884中学師範科)
1904	直隸師範学堂	中谷延治(1901研究科) 教育学 永井勇助(1901博物) 博物学 児崎為楳(1899地歴科) 単級普通学 大境鴻藏(1901地歴科) 歴史地理
	山東師範学堂	中村覚之助(1904博物科) 博物学
	湖南西路師範学堂	鈴木直三郎(1888中学師範科) 教育学
	福建高等学堂	野地清学(1904地歴科) 歴史地理
1905	京師大学堂	法貴慶次郎(1900文科) 教育学
	直隸師範学堂	小幡勇治(1899 理科) 教育学
	山東高等学堂	橋本五作(1904 文科) 日本語
	浙江高等学堂	鈴木圭寿(1890選科) 植物学 辻安弥(1901研究科) 地質学
1906	浙江兩級師範学堂	鈴木圭寿(1890選科)
	湖北武普通学堂	高桑良興(1904研究科) 理科 小林晋吉(1892理科) ※理科 阿知波小三郎(1901理科) 博物学※
	四川通省師範学堂	草野金松(1901理科) ※
	四川嘉定中学堂	馬場節蔵(1903国語漢文専修科) ※
1907	直隸師範学堂	須藤一多(1884体操伝習所)
	北洋師範学堂	柏原伊之吉(1901手工専修科) 教手工 中島半次郎(1899研究科) 教育学 大津源三郎(1901文科) 博物学
	山東師範学堂	秋田友作(1901理科) 河瀬半次郎(1904文科) 上田芳郎(1906理科)
	河南優級師範学堂	飯河道雄(1906数学専修科) 算数理科
1908	湖北武普通学堂	森川勉(1903理科) 和 白井勝三(1901理科) 理科
	湖南優級師範学堂	愛甲平一郎(1901研究科) 教育学
	湖南南路師範学堂	生田潔(1901理科) 博物学※
	四川通省師範学堂	豊岡茂夫(1901研究科) 教育学
1909	成都高等学堂	辻信一(1904博物科)
	瀘州師範学堂	桜庭行藏(1900理科)
	夔州中学堂	豊田五郎(1892理科)
	陝西高等学堂	足立喜六(1898理科) 教理科
1910	兩広高等工業学堂	今村孝次(1899文科)
	奉天兩級師範学堂	森本清藏(1899理科)
	雲南高等師範学堂	河合綱吉(1904理科)
	直隸師範学堂	直江光次(1902文科)
1911	北洋師範学堂	近柴太郎(1902地歴科) 歴史地理 柴田勝雄(1902農学地学専修科)
	宇属初級師範学堂	永江正直(1884中学師範科) 物理化学
	湖南高等学堂	園田愛之助(1907研究科)
	湖南南路師範学堂	大窪敬治(1900理科)
1912	叙府中学堂	田中蓋(1905物理化学専修科) ※
	福建高等学堂	安藤秋三郎(1904博物科) 上野異(1901体操専修科)
	全閩師範学堂	土田忠二(1892理科) 上野異(同上)
	兩広優級師範学堂	浦順平(1901教育学部) 橋本福藏(1905研究科)
1913	吉林中等実業学堂	加知貞一郎(1905博物学部)
	山東師範学堂	澤村大宇(1905数物化学部)
	陝西優級師範学堂	宮崎重藏(1905地歴科) 歴史地理
	浙江兩級師範学堂	吉加江宗二(1901手工専修科) 図画手工
1914	湖南優級師範学堂	能勢頼俊(1898理科) 原田長松(1895理科)
	湖南明德学堂	堀井堂太郎(1892理科) 永江正直(1884中学師範科)
	四川通省師範学堂	大島弘公(1901手工専修科) 山蔦一海(1904博物)
	陝西高等学堂	鈴木直三郎(1888中学師範科)
1915	全閩師範学堂	森本修(1904地歴科) 永澤定一(1896理科)
	安徽師範学堂	正木直太郎(1882中学師範科)
	浙江兩級師範学堂	本多厚二(1899理科) 動物学
	四川優級師範学堂	川崎武親(1907数物化学部)
1916	兩湖師範学堂	愛甲平一郎(1901研究科)
	安徽高等学堂	新井長三郎(1898選科)
	湖南中路師範	福土宋之助(1904地歴科) ※
	兩広優級師範	津久井徳次郎(1898理科) ※
不明	兩広方言学堂	牧田貞雄(1904国語漢文専修科) ※

情報提供のお願い

黄潔萍さんは、清末の中国派遣教師(左の東京高師卒一覽)や中国人留日師範生に関する情報を収集しています。

日本滞在中はもとより帰国後でもかまいませんので、何らかの情報がございましたら、下記にご連絡を頂ければ幸いです。

黄潔萍 545435561@qq.com
茗溪会 peer@meikei.or.jp

《論文等》

その後、中国自体の師範教育の発展、米国の中国教育界への進出、日本の対中教育政策の不備などにより、1909年以後、日本人教習の時代は終焉を迎えた。

「晚清長岡護美対華教育活動研究」、『玉林師範学院学報』2022年第5期
「清末東京高等師範学校卒業生在華教育活動述論」、『近代中国』2021年第35輯
「山口昇」「山口囑託員報告書」中の晚清梧州社会、『玉林師範学院学報』2018年第6期

岡崎一雄	岡武志	大場愼	大西寛	大塚芳郎	大塚知絵	大谷早百合	大谷潔	太田寛人	太田潔	大神友明	大石英幸	江田昌佑	上松豊	上田統雄	岩村雅朗	岩崎信明	今村厚子	伊藤恭滋	板本正夫	伊丹尚子	石渡和実	石橋泰	安藤俊貴	新井保幸	阿弥良浩	阿部聖仁	熱田恵司	足立勉	青山和義	阿江通良	阿江美恵子	相澤鎮夫
坂本紀典	阪本知子	坂田信久	坂入浩	齋藤隆	齋藤興哉	今春敏	小山浩	小島正徳	小成幸男	後藤光将	後藤雅宣	河野文隆	小池一郎	栗木晴久	倉橋裕紀子	日下部公昭	北原信夫	川本太郎	川島浩平	河内泰三	河合学	上川路紀久男	金井律男	加藤信哉	勝田茂	織邊剛	小内稔	落信久	尾崎武	奥山専逸	岡村智教	緒方篤
田上修	高橋光彦	高橋利之	高橋砂織	高野だいわ	鷹野誠三	高梨雅人	高岡正幸	高井信一	高井清	瀬藤康夫	鈴木基史	鈴木泰全	鈴木英雄	須佐博美	杉原大一郎	菅谷公男	白田佳子	島谷弘幸	島田和生	柴田恵美子	篠澤卓也	重田親志	山海嘉之	真田久	佐藤義榮	佐藤成明	佐藤豊実	佐藤忍	佐藤悦郎	佐々木甫	佐々木次雄	笹川和輝
平形精逸	平岡亮	東勇介	原田満彦	原田拓二	林信孝	長谷川二三	野中不二男	根本治	饒村久美枝	二谷貞夫	西村浩宣	奈良昭男	奈良隆	夏目幸一郎	中山芳典	中村美枝子	中村伸夫	仲澤眞	仲沢市夫	長崎麻子	中川雅史	土橋弥生	寺尾壽幸	寺井正憲	塚本正仁	千輝克忠	玉川信一	田淵英樹	田中正夫	田中秀幸	田中誠一	竹信武
(五十音順・敬称略)			渡邊寛	若本尊光	六嘉順子	吉田由治	吉尾健太郎	山本敬三	山下清海	山口松太郎	山内研二	山井今朝雄	矢吹桂子	矢野哲	八ツ田利幸	安永真澄子	森島祐子	森下功	森彰	望月雅之	村井正	宮下弘子	宮下憲	宮内卓	溝口繁美	三島次郎	細渕昌美	北條伸吾	藤谷秀道	藤家昭和	藤井範久	平野正一

「茗溪フェロー」の募集要項

既に会費を完納した会員の皆さまに呼びかけて「茗溪フェロー」として、皆さまからの寄付をしていただき、今後の茗溪会の運営に寄与していただくことを目的といたします。

- 1 寄付金 1口 2,000円/年間
- 2 支払い方法 口数の選択 1口以上
郵便局窓口またはATMから送金してください。
会員番号は必ず記入してください。
(お送りした封筒の宛名に記載してある8桁の番号)
クレジットカードでのお支払いもできます。詳細は事務局までお問い合わせください。
- 3 季刊誌『茗溪』誌上にお名前を掲載いたします。
- 4 納入口数に応じて、記念品を贈呈しております。

***** 桐の葉のつどい *****



◆桐心会 (神奈川県・茗溪体育同窓会)

とき 令和5年3月11日
ところ 北京会館 (大和市)

コロナ禍で、4年ぶりに開催された桐心会です。茗溪体育の同窓24名が参集しました。最高齢は宮原孝雄先生 (S30教大体)、90歳を超えられましたが矍鑠とされています。総会で落信久先生 (S43教大体) から佐々木悦子先生 (S46教大体) に会長のバトンが渡されました。最後に「桐の葉」を声高らかに斉唱し、お開きとなりました。
文責：大石進 (S56筑体)

茗溪学園だより

第42回卒業式

令和4年度第42回茗溪学園高校卒業式が、3月4日本校第1体育館にて挙行されました。

感染症対策のために、昨年同様卒業生と保護者のみの出席とし、時間短縮の対応も行いましたが、壇上にはご来賓（学園理事、茗溪会理事、父母会役員など多数）の方々を三年ぶりにお迎えして挙行することができました。

卒業生数は過去最多の293名（内IB課程卒が18名）でした。本校の学年定員は中学240名、高校280名ですが、前例のない定員超の卒業生数でした。（この学年が定員オーバーで中学に入学したことから定員の再検討を始め、県からの指導もあって、高校定員を2019年に中学を2020年に現在数に増員しました。）卒業生総数は、9779名となり来年度には一人に達する予定です。



証書授与は、最初と最後の代表者のみを壇上での手渡しとしました。3年間マスク着用生活でしたが、式では声を発しない時はマスクを外して良いとしました。

国際交流①

これは、「さくらサイエンスプログラム」(科学技術振興機構・国際青少年サイエンス交流事業)として採択された活動です。来校したのは、タイ国シーナカリンウィロート大学付属ブラサミット高校生10名、教員3名、期間は3月5日～11日でした。本校は、海外学校との姉妹校提携を数多くしていますが、同校はその中の1校です。

内容は、両校生徒がそれぞれ行っていた研究の発表会他に、本校IBクラスの生徒と「Group」の活動を行いました。これは両校生徒で班を作り、二日間かけて研究テーマ決定から実験、発表までを協力して行うプログラムです。この協働活動を通して、コミュニケーション力が培われ、互いの考え方や思考のプロセスの違いなどを理解することができるようになったのではないかと思います。寮生活も共にしましたので、より深い交流となりました。

国際交流②

3月6日～14日の期間、タイ国の別の姉妹校、チュラロンコン王立大学付属中学の生徒29名と教員3名が来校し、交流が行われました。タイ・バンコクから2つの学校が同時期の来校となり、いつもとは違う学校の様子が見られました。



チュラロンコン王立大学付属校の生徒達

同校生徒達は、本校中学2年生のクラスに入って一緒に授業を受けました。授業以外では、筑波山麓にある活動施設を利用しての交流活動も行いました。また、宿泊については、ホームステイとしました。

なお、令和5年度よりSSH第3期の指定をいただきました。開校以来の伝統となつている個人課題研究、SSHとリンクするとより発展的に展開することができそうです。引き続き生徒の探究心を高めていきたいと考えています。

海外大学への進学

個人課題研究発表会

令和4年度個人課題研究発表会が、3月9日に本校を会場として開催されました。筑波大学の後援を頂けるようになって14年が経過し、筑波大学の教授陣を座長にお迎えしての発表形式もすっかり定着し、生徒のプレゼンスキルも随分と高まってきていることを実感しました。



44名の口頭発表があった。写真の発表は「NFT美術館」をテーマに英語での研究だった。

昨年度の海外大学合格総数は12と国内で2番目に多い学校となりました。今年度の合格数は、3月17日時点で91となつており国内3位ということになります。このあと4～5月にかけてさらに出てきますので、昨年度以上の数字には到達する可能性もあります。昨年度までの3年間では、世界ランキング100位以内の大学に62の合格がありました。今年度はIBDPスコア40以上が4名(45点満点が1名)、39が3名と、好成績者が数多く出ました。

本校生徒および保護者の進学に対するニーズは、ますますグローバルな方向に向かっています。また、日本学生支援機構奨学金も本校生徒5名が給付されることになりました。

部活動報告(試合結果など)

- ◎**高校ラグビー部**：第102回全国大会2回戦敗退、第24回全国選抜大会出場(14回目)3月25日から熊谷ラグビー場
- ◎**美術部**：第67回全日本学生美術展：団体「全日本学生美術会賞」(最高賞で34回目)個人「推奨」4名「特選」2名「佳作」22名(美術部員以外の授業作品8名含む)
- ◎**農業施設学会発表**：高3生「優秀賞」受賞、「2023年農業施設学会学生・若手研究発表会」(今回は筑波大学が会場)で発表する。36名発表の内高校生は1名。優秀賞8名(写真)に入る。



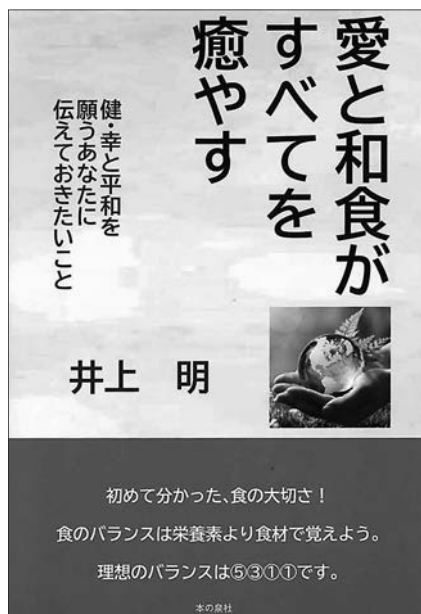
- ◎**第5回茨城県高校生パラメンタリーディベート大会**：優勝(高1、2生3名)、第12回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯全国大会出場、3月下旬開催
- ◎**JRC同好会**：つくばSDGsアワード大賞、タイトル「学校の畑を通して『繋がる』活動」

追 悼 録 (敬称略)

逝去会員氏名・卒年科・地域・
逝去年月日・続き柄・遺族氏名

渡辺 浩光	18文一	岐阜	R5. 1.11	長男	渡辺 泰成	中込 喜仁	33教大専攻	山梨	R4.10.15	長女	中込 公美
野田修三郎	23文五	北海道	R4.12.20	妻	野田 敏子	石川 勝教	34教大体	埼玉	R3. 8.26	妻	石川 尚子
石濱 義晴	23農教	茨城	R5. 1.22	長女	石濱 裕子	松原 豊	37教大心	神奈川	R4. 2.15	妻	松原以登子
荻田 勉	24研	静岡	R5. 1. 3	長男	荻田 丈仁	買手屋 仁	37教大地鉦	東京	R4. 9.30	妻	買手屋節子
五十嵐和夫	25理三	山形	R4.10.15	妻	五十嵐晴美	高橋 進	38教大経	岩手	R4. 2.12	妻	高橋 光子
唯根大三郎	26文三	東京	R5. 3. 9	妻	唯根 幸子	長尾 隆	39教大数	東京	R4.10.29	妻	長尾美佐子
波多 重俊	26文四	新潟	R5. 2. 9	長男	波多 正俊	根本 興一	39教大林	愛知	R4. 7.13	妻	根本 清子
野崎 文行	26理二	東京	R5. 1.14	妻	野崎 高子	松永 守男	41教大漢	群馬	R4.11.28	長男	松永 民雄
川崎 郁太	26農教	東京	R5. 1.25	妻	川崎須美子	渋谷 務	41教大哲	千葉	R4.12.29	妻	渋谷さく子
中村 祐次	27体専	千葉	R5. 1. 3	長男	中村 文雄	山本 眞一	42教大林	神奈川	R4.10. 5	長男	山本 高豊
長野 武夫	28教大経	東京	R5. 1.17	長男	長野 健一	山村 順次	43院博地	千葉	R3.11.22	妻	山村恵美子
竹内 巧	30教大哲	神奈川	R4.12.12	妻	竹内 照美	工藤 知彰	49教大法政	千葉	R4.11.26	妻	工藤美美子
飯塚 和明	31教大農化	東京	R3. 9.23	妻	飯塚美和子	清水 静海	50院修教	埼玉	R4.11.13	長男	清水 智弥
小泉 澄夫	32教大経	埼玉	R4.11.28	妻	小泉 敏子	岩崎 久雄	55筑一社会	東京	R5. 1.30	妻	岩崎由美子
大野 武夫	32教大数	埼玉	R4.11.28	妻	大野 雅子	井藤 幹治	55筑体	広島	R5. 1.26	妻	井藤久仁子
土生 寛	32教大体	宮城	R5. 2.18	長男	土生 善弘	山田 雄三	59筑医	長野	R4.12. 2	妻	山田 千晶

著 書 紹 介



『愛と和食がすべてを癒やす』

著 者…井上 明 (50年教大体)

本の大きさ…四六判 208頁

発行 所…本の泉社

発行年月日…2020年8月7日

目次より

第1章 甦る命

余命3カ月の乳癌から生還！…肉は最も発癌性が高い食べ物である！

第2章 甦る和食

「和食は世界一の健康長寿食である」…アメリカの結論…和食の長所 洋食の短所…食の自然法則…腸内細菌が心と体を決める

第3章 甦る日本

食が乱れると家庭も学校も乱れる…世界はどんどん変わっている…健康長寿国復活宣言…公害から得た貴重な教訓…今こそ医療大改革の時！医療が変われば日本が変わる

令和4年秋の叙勲

(追記 敬称略)

瑞宝双光章

根岸 甫 H27筑修教

(埼玉)

令和4年高齢者叙勲

(追記 敬称略)

瑞宝小綬章

土生 寛 32教大体

(宮城)

※本欄は、各地域からの調査報告により掲載しております。もし記載もれがある場合は、事務局までお知らせください。

広報

訂正

前号(令和5年正月号)で誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。

P4「茗溪創基150年協力者」芳名」3、11段目

(正) 菅野峰明(かんの)

向坂嘉一(こうさか)

(誤) 姓の読み方の誤りで記載位置の誤り

P7「令和4・5年度 教職窓口一覧」31番

(正) 戸井田 克己 支部長、代議員

(誤) 戸井田 克己 支部長

▽「筑波大学新聞」4月号を同封します

「筑波大学新聞」4月号を今年も同封致します。筑波大学新聞には筑波大学の様子を詳しく掲載されており、ご活用ください。

▽卒業予定学生の就職活動にご支援を

来春卒業予定の筑波大学生のために、諸先輩のご指導・ご支援をお願い致します。

「問い合わせ・連絡先」筑波大学学生部就職課

企業・団体関係 (029)・853・6001

教員・公務員関係(029)・853・2249

▽茗溪会事務局

事務局長 矢野 正人(茗溪会常務理事)

大塚事務所 會田 芳光(財政・局長代理)

花上 克宏(総務・局長代理)

小山 恵子(局長補佐)

埜渡真紀子(局長補佐)

堤 誠一

大根田 裕

前田 三郎

筑波事務所 野崎 芳恵(所長)

瀧下 芳彦(局長代理)

宮本 靖子

表紙の言葉

広報委員 鈴木一弘

茗溪会館のある茗荷谷から南に約4km、皇居北西側にある千鳥ヶ淵は、都内屈指の桜の名所として知られています。コロナ禍前の千鳥ヶ淵は、この写真のように春爛漫の時期には多くの花見客で賑わい、明るい日射しの中、満開の桜に囲まれたお堀にはたくさんのボートが浮かんでいました。平穏な日常に戻りつつあるこの春こそ、ふたたびこのような風景が見られるようになることを切に願っています。

編集後記

今年の桜の開花は例年よりも早く、関東では入学式の桜ではなく、卒業式の桜となったようです。

本号では例年の「茗溪会賞受賞者」、「全国各地組織の役員及び総会予定」などの他に、昨春秋に逝去された西野虎之介元理事長の追悼記事を江田昌佑前理事長、長瀬要石元理事および矢野常務理事に執筆していただきました。

コロナ禍の収束傾向に伴い、同窓会等も再開されつつあると思います。その際には是非とも「桐の葉のつどい」への投稿をお待ちしております。(事務局)

お願い

- ・正確な会員情報把握のために、住所、勤務先の変更はすぐにご連絡ください。
- ・年会費のお振込みは、早めにお願いたします。

令和5年4月15日発行

発行 一般社団法人 茗溪会

茗溪会事務局・大塚事務所

112-0012 東京都文京区大塚一五二二三

TEL 〇三三三九四一〇一三六

FAX 〇三三三九四一七六七四

E-mail info@meikei.or.jp

URL http://www.meikei.or.jp

郵便振替記号番号 〇〇一五〇一四九七七

筑波事務所

305-8577 つくば市天王台一〇一

TEL 〇二九八五〇一〇四四

FAX 〇二九八五〇一〇四五

E-mail tsujimura@meikei.or.jp

印刷 東京都文京区関口一三九一〇

山浦印刷株式会社

予告

公開講座

東京地区・つくば地区
ともに未定

追悼のついで(予定)

日時：2023年9月に予定
場所：茗溪会館

教職二次試験対策研修会(予定)

日時：2023年7月30日(日)
2023年8月11日(金)
〈神奈川・埼玉〉
〈東京〉
場所：茗溪会館

日時：2023年7月29日(土)
2023年7月30日(日)
〈茨城〉

2023年8月6日(日)
〈千葉〉

場所：筑波大学内
※詳細は茗溪会ホームページに掲載

茗溪・筑波産業人倶楽部 全国展開発表の会(予定)

日程：2023年12月16日(土)
場所：茗溪会館

 **株式会社 阿部兄弟建築事務所**
平成28年度東京ワークライフバランス認定企業

<http://abeoffice.co.jp>



〒101-0032

東京都千代田区岩本町1-3-9 高木ビル

代表取締役 **荒井 豊人**(昭和57筑基工)

TEL 03-3866-4181 FAX 03-3866-4120



株式会社 十和観光

代表取締役社長 井坂信洋

TEL: 0461-733333 FAX: 0461-733333
〒306-2451 茨城県つくば市みどり野 西郷輪253
TEL: 0297-6529122 FAX: 0297-65291220

スポーツ&起業家&企業人「つくばウェイ」
TSUKUBA WAY プロジェクト
～茗溪・筑波OB・OGの活躍を集約!!～

<http://tsukubaway.com/>

株式会社 KTAJ


代表取締役 藤田 文武 (体育専門学郡 2004年卒)

印刷・製本までトータルに対応

株式会社 **ケイエスアイ**

本社 〒557-0063
大阪市西成区南津守7-15-16

TEL 06-6652-8000 FAX 06-6652-8894

 株式会社 **長谷工 コーポレーション**

〒105-8507 東京都港区芝2丁目32番1号
電話 03(3456)4501

取締役副社長執行役員 植岡 祥之(昭57筑社工)

広告募集

集めるのは「知識」と「技術」
さまざまなモノや思想を“寄せ集め”
教育の世界が求めるウオッツを形にする会社

PiCK & MiX

Keeping Up Innovation with Integrating
Art & Technology

株式会社ピックアンドミックス 代表取締役 松村直樹

<https://www.pickandmix.co.jp/>

FXC

Future X Communications

FXC株式会社 <https://www.fxc.jp/>

当社は光通信機器やイーサネットスイッチ等のネットワーク機器を開発・製造し、各地の公立高校始め、官公庁、企業等に多数納入実績がございます。

創業者：代表取締役社長執行役員 谷輪 重之(93筑修経営)

筑波大学教員、広島大学教員初のコラボレーション!

新・教職課程演習

全22巻

筑波大学人間系教授 清水美恵 監修
広島大学大学院教授 小山正孝

明治時代から我が国の教員養成をリードしてきた筑波大学教育学学位(大学院)プログラムと、
広島大学大学院人間社会科学研究所(旧大学院教育学研究科)の専任教員が編者として
初めて協力する画期的な演習シリーズ。我が国の教員養成の質向上を一段と図ります。

A5判・並製
定価：1,650円～2,640円(税込)



「新・教職課程演習」全22巻



協同出版

〒101-0054 東京都千代田区神田錦町2-5
TEL.03-3295-1341 FAX.03-3233-0970 HP.<https://kyodo-s.jp>



Restaurant&Cafe

ランチ・カフェ・ディナー

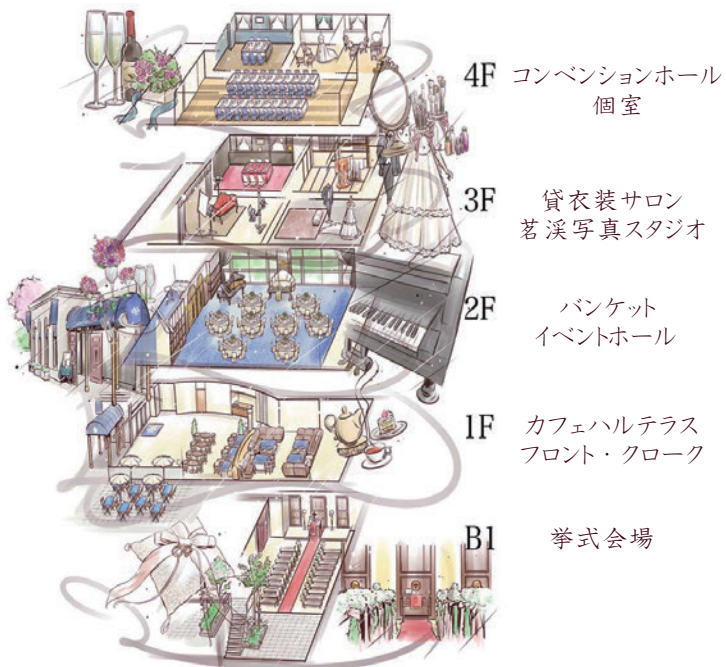
“嘉ノ雅” 茗溪館
KANOBi MEIKEIKAN
Wedding
結婚式・結納・フォト

Party&Meeting

宴会・同窓会・会議



嘉ノ雅 茗溪館 館内 MAP



茗溪会会員・筑波大学生・卒業生の皆様だけに贈る

ご優待特典

ご婚礼 費用総額（税サ別）より5%OFF

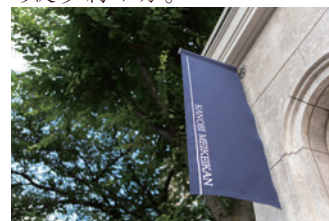
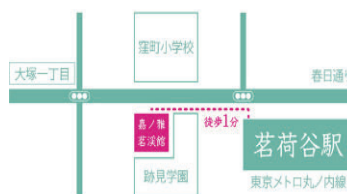
お食事 ご飲食合計（税サ別）より10%OFF

お食事会・ご宴会・会議のご予約も承ります

大ホール（2F 茗溪） 最大100名様
小・中ホール（4F 筑波・新泉） 28名～72名様
個室（あけぼの・占春） 6名様～12名様

ご利用料金は、人数・利用部屋によって異なります。
音響設備・スクリーンの使用など、別途料金（¥10,000～）が発生いたします。
ご利用の場合は、ご予約・お支払時に在学証明書・名刺・茗溪会員証などの掲示をお願い致します。
※全て着席時の人数記載となります **お気軽にお問い合わせくださいませ**

池袋駅から約5分・東京駅から約10分。
東京メトロ丸ノ内線「茗荷谷」駅から徒歩約1分。



“嘉ノ雅” 茗溪館

KANOBi

MEIKEIKAN

TEL: 03-5319-1890

〒112-0012 東京都文京区大塚 1-5-23
HP: <http://www.kanobi-meikeikan.com/>

問い合わせメールアドレス: info@kanobi-meikeikan.com
営業時間: 11:00～20:00 定休日: 不定休 ※要問合せ

▼HP▼ ▼LINE友達募集中▼



ID:@enc2843s

正統派だから、 結婚も正攻法で。

進化を続けるキューピッドの出会い

結婚を誠実に考える人をお迎えして43年。

個性と人柄が伝わる20項目メッセージから、
プロのマイスターが共通点・共感を見出して、
お一人おひとりに結婚相手をご提案する
「経歴書・写真紹介」。

最初のお会いから話が弾み、
「恋愛モード」の交際が始まります。

キューピッドクラブ 検索

出会いと結婚の風景を見たいなら、
4,000通を超える結婚カップルメッセージでお確かめください。

キューピッドの 結婚



キューピッドクラブは慶應義塾大学OB間の親睦パーティから、1980年設立。

■パンフレット「The Cupid Style」をお気軽にご請求ください。

☎ 0120-0333-82



■入会資格

結婚を誠実にお考えの独身の方

●男性 25～45歳、定職におつきの方。●女性 20～40歳

※入会に際して審査があります。

結婚に安心して向き合えるフィールド



Cupid Club

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル東館10F 03-5843-1581 公式ホームページ www.cupid.co.jp

東京ビジネスホテル 茗溪会東京宿泊所

茗溪会会員割引料金 (税サ込)

シングルB (バス・トイレ別) ¥ 5,000~¥ 6,700
 シングルA (バス・トイレ付) ¥ 7,000~¥ 9,000
 ツイン (バス・トイレ付) ¥10,500~¥14,500
 朝食バイキング ¥ 1,200→¥ 880
 大浴場時間 : 6:30~9:00 17:00~01:00



東京都新宿区新宿6-3-2
 TEL 03 (3356) 4605
 FAX 03 (3356) 4606

地下鉄丸ノ内線 新宿御苑前駅 1番出口 }
 都営新宿線 新宿三丁目駅 C7出口 } より徒歩7分
 地下鉄副都心線 新宿三丁目駅 E2出口 }
 JR新宿駅より車5分

安全に、快適に、正確に OZONE 大曾根タクシー株式会社

代表取締役 塚本 育子

☆お迎え料金無料
 ☆カード利用 OK!
 ☆貸切バス事業者より
 安全性評価認定(★★★)されました



〒300-3261 茨城県つくば市花畑3丁目19-4

TEL 029-864-0301
 FAX 029-864-4727
 メールアドレス <http://www.taxi.e-tsukuba.jp>

フリーダイヤル 0120-000-302
 各営業所に通じます



「安心」「安全」「快適」な
 ITインフラ環境を最先端の技術で実現



- ・社内ネットワーク
- ・院内ネットワーク
- ・無線 LAN, Wi-Fi
- ・テレワーク, Web 会議
- ・セキュリティ

豊富な実績、高い技術力で、皆様に最適な
 ITソリューションをご提供いたします。

株式会社FYF

~ ITソリューションでより良い未来を ~

URL <https://www.fyf-h.com>
 twitter https://twitter.com/FYF_INC

本社 〒277-0843 千葉県柏市明原 1-1-6
 TEL 04-7192-8927 FAX 04-7192-8929
 関西支店 〒537-0025 大阪府大阪市東成区中道 3-16-16 毎日東ビル 4F
 TEL 06-4306-4019 FAX 06-4306-4023
 東北支店 〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 1-6-18 東北王子不動産ビル 5F
 TEL 022-226-7290 FAX 022-226-7291
 九州支店 〒812-0029 福岡県福岡市古門戸町 2-4 KS コモンドビル 5F
 TEL 092-406-4443 FAX 092-406-4453



広告を募集しています。

事務局までご相談ください。

一般社団法人 茗溪会

〒112-0012

東京都文京区大塚1丁目5番23号

電話 03(3941)0136

FAX 03(3941)7674

eメール info@meikei.or.jp

ホームページ <http://www.meikei.or.jp>

Meikei-
Making
the
Difference



Meikei
High School

茗溪学園中学校高等学校

* 茗溪学園は1979年に茗溪会の百周年記念事業で生まれた学校です

- ◆ 寮のある学校です
海外からの外国人留学生も生活しています
- ◆ 国際バカロレアIBDP課程認定校です
- ◆ 「知識」「体験」「考え方」
——とことん学び身につけます
- ◆ 部活動が盛んな文武両道の学校です
- ◆ 多くの海外姉妹校があり、交流が盛んな学校です

2023年度公開行事
および学校説明会開催予定

5月27日(土) 第1回学園説明会
(オンライン)

6月2・3日(金・土)
桐創祭(文化祭)

6月17日(土) 海外生帰国生説明会
(オンライン)

詳細については本学園ホームページで
ご確認ください。



アクセス つくばエクスプレスTX つくば駅A3A4出口 バスターミナル4番のりば「ひたち野うしく行」バス、
「環境研究所」下車徒歩5分 または JRひたち野うしく駅 東口バス乗り場「つくばセンター行」
e-mail kouhou@meikei.ac.jp (見学等) entry@meikei.ac.jp (入試等)